

## 4 履修案内・教育課程表

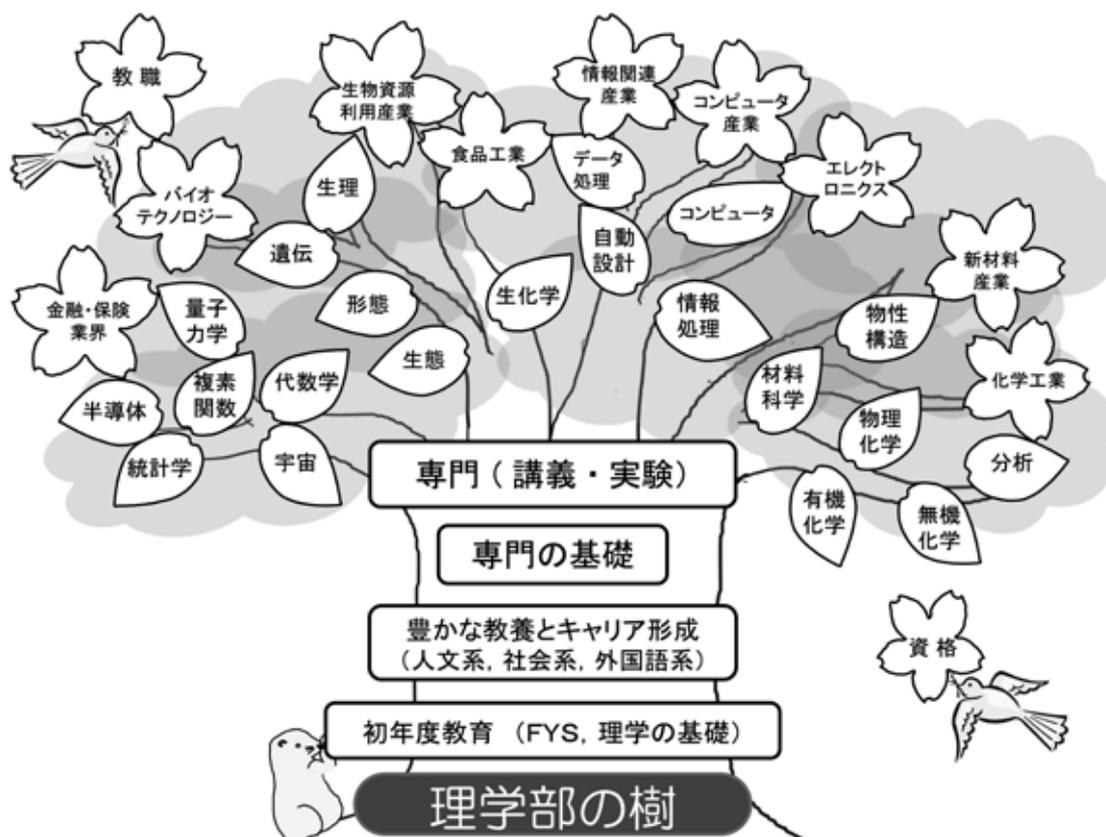
# 理学部 履修案内 (2014年度入学者から適用)

【2013年度以前の入学者は、2013年度履修要覧を参照すること（神奈川大学ホームページから閲覧できます）】

## 理学部の構成と特色

21世紀を迎えた今、我々は高度に進歩した科学技術の恩恵にあずかって、豊かで便利とされる社会に生きています。しかし、一方では、文明の発祥以来積み重ねられてきた負債、すなわち食糧やエネルギー資源の消費と枯渇、それに伴う地球環境の変化などにより、人類の生存さえも危ぶまれる憂えるべき事態が生じています。この憂いを取り除いて生き抜くためには、新しい観点に立つ科学技術の一層の進展と社会の適切な多様化が必要であり、それに伴って価値観の大きな変革が要求される。このことを踏まえ、教育と研究の分野においても、これらの変革を推進することのできる独創的で活力のある人材の育成が急務となっています。これに応えるために大学の教育課程の改革が行われ、理学部では2014年度からカリキュラム体系を共通教養科目と専攻科目から成るものに改めました。そのねらいは、教育が形式に流れることを防ぎ、各人が学術の基礎をまずしっかりと身につけ、その上で専門的な学術を修め、社会の中核として活動できる能力を養うことにあります。

理学部は、数理と物理学、情報科学、化学、生物科学をそれぞれ専門とする4学科（数理・物理学科、情報科学科、化学科、生物科学科）及び総合理学プログラムで構成されている。教育と研究の上では、これらの5つの部門の間で交流をはかり、互いを補完した教育と研究がなされることを目指しています。



### <卒業要件>

大学を卒業するためには、通算して4年以上在学（ただし、休学期間は除く）し、各学部・学科で定められた授業科目及び単位数を履修修得しなければなりません。なお、「通算4年以上の在学」とは、「学期単位」では「入学時から4年次までに通算して8学期以上在学すること」です。各学科の卒業に必要な単位数は各学科の教育課程表で必ず確認してください。

### <履修単位数>

理学部の各学科、プログラムは、履修登録できる単位数を、各セメスター30単位、年間49単位を上限としています。年間修得単位数が40単位程度であれば、順調な修学状況と判断されますので、授業科目の履修にあたっては各学科、プログラムのガイダンス、クラス担任及びチューターの学修上の指導に従って適切で無理のない履修計画を立てるよう心掛けてください。

## <学修相談>

入学してから卒業までの間、何事もなく無事に過ごすのが当たり前と思う人が多いと思いますが、それでも高校と大学との学修環境の違いから、いろいろ戸惑うことがあると思います。そうした場合に、湘南ひらつかキャンパスでは両学部、学科、プログラムごとに学生一人ひとりの相談に応じられる制度を設けています。

理学部ではクラス担任制度と専任教員が全員で当る「チューター制度」を設けています。必要なときはいつでも担任教員又はチューターの先生の研究室又は卒業研究を行っている実験室などを訪ねて相談してください。相談のための曜日と時間帯は特に定めていません。

### 1. クラス担任

- (1) 1年次生：新入生オリエンテーションの時に発表します。
- (2) 2年次生：1年次生の時の担任教員と同じです。
- (3) 3年次生：2年次生の時の担任教員と同じです。
- (4) 4年次生：3年次生の時の担任教員と同じです。

### 2. チューター

#### (1) 数理・物理学科

- ① 1年次生：新入生オリエンテーションのとき発表します。
- ② 2年次生：1年次生のときの担当教員と同じです。
- ③ 3年次生：前学期は1年次のときの担当教員と同じです。  
後学期は、各自履修の「数物ゼミナール」の担当教員がチューターとなります。
- ④ 4年次生：各自履修の「卒業研究」の担当教員がチューターとなります。

#### (2) 情報科学科

- ① 1年次生：新入生オリエンテーションのとき発表します。
- ② 2年次生：1年次生のときの担当教員と同じです。
- ③ 3年次生：前学期は1年次のときの担当教員と同じです。  
後学期は、各自履修の「情報ゼミナール」の担当教員がチューターとなります。
- ④ 4年次生：各自履修の「卒業研究」の担当教員がチューターとなります。

#### (3) 化学科

- ① 1年次生：新入生オリエンテーションのとき発表します。
- ② 2年次生：1年次生のときの担当教員と同じです。
- ③ 3年次生：前学期は1年次生のときの担当教員と同じです。後学期は、各自履修の「化学研究法Ⅱ」の担当教員がチューターとなります。
- ④ 4年次生：各自履修の「卒業研究」の担当教員がチューターとなります。

#### (4) 生物科学科

- ① 1年次生：新入生オリエンテーションのとき発表します。
- ② 2年次生：チューターは置きません。問題があれば教務委員の教員を主として、どの教員も対応します。
- ③ 3年次生：前学期チューターは置きません。問題があれば教務委員の教員を主として、どの教員も対応します。  
後学期は、総合生物学演習の担当者がチューターとなります。
- ④ 4年次生：「卒業研究」の担当教員がチューターとなります。

#### (5) 総合理学プログラム

- ① 1年次生：新入生オリエンテーションのとき発表します。
- ② 2年次生と3年次生前学期：1年次生のときの担当教員と同じです。
- ③ 3年次生後学期：分属の各学科の方法に準じます。
- ④ 4年次生：各自履修の「総合理学研究」の担当教員がチューターとなります。

共通教養科目履修案内

(2014年度入学者から適用)

## 共通教養科目について（2014年度入学者から適用）

本学の共通教養教育は、自立した良識ある市民としての判断力と実践的能力、国際的感性とコミュニケーション能力を有し、自ら成長することのできる人材を養成することを理念とし、その具現化をめざす以下の方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 学部・学科の枠組を越えた幅広い分野の共通する科目を履修することにより、神奈川大学の学生として身に付けるべき、広い視野と総合的な知性を涵養するための科目を配置しています。
2. 現代社会の諸課題や学際的分野等、時代の要請に応える内容を包括した科目を配置しています。
3. 学部・学科の専門教育と有機的に関連させるための科目を配置しています。
4. 大学生活に順応できるよう、全学必修科目として初年次導入教育科目「FYS（ファースト・イヤー・セミナー）」を配置しています。
5. グローバル社会において必要とされる外国語運用能力を身に付け、世界の多様性の認識や異文化理解を促進するため、英語に加えて、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の外国語科目を配置しています。

共通教養科目は、1年次から4年次まで全年次を対象として開講されている科目です。下の図のようにいくつかの分野に分かれています。各分野には卒業までに修得しなければならない単位数（卒業要件単位数）が、また進級に必要な単位数が定められています。この単位数は、入学年度、学科で異なりますので、必ず専攻科目のページに記載の「卒業要件」「進級要件」を確認してください。

| 共通教養科目      |               |       |       |       |         |         |       |       |
|-------------|---------------|-------|-------|-------|---------|---------|-------|-------|
| 共通基盤科目      |               |       |       |       |         | 共通テーマ科目 |       |       |
| FYS<br>(必修) | 外国語科目<br>(必修) | 人文の分野 | 社会の分野 | 自然の分野 | 人間形成の分野 | 生活と社会   | 生活と科学 | 自然と環境 |

### 共通教養科目 共通基盤科目について

「共通基盤科目」では幅広い分野にわたる教養や基礎的学力、ジェネリック・スキル（一般的・汎用的な有用性をもつスキル）の育成を旨として、以下の科目を開講しています。

#### 1 FYS（必修）

FYSは全学共通の初年次導入教育科目（必修）です。FYSとは、ファースト・イヤー・セミナー（First Year Seminar）の略で、新入学生（1年次生）は少人数のクラスに分かれ、「大学への入門」をセミナー（演習）形式で学びます。本学では、このFYSを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートしています。

#### 2 外国語科目（必修）

今日のグローバル社会において、外国語運用能力や異文化理解がますます不可欠となっていることから、外国語能力の一層の充実を図っています。

### 3 人文の分野

過去から現在に至るまで、人は常に「人間」の存在に関心を抱き、その探究に力を注いできました。「人文の分野」では、哲学・宗教・心理・歴史・文学・芸術などの諸分野の学修を通して、人間の存在に関わる様々な事柄とその本質、あるいは人間が生み出した多様な文化とその価値を、これまでよりも広く深く学び、豊かな教養を身につけることを目的としています。学生の皆さんには、この分野の学修を通して人間社会がこれまで積み上げてきた多様な価値観と豊かな文化を理解し、国際社会で通用する幅広い視野と文化的感覚・知的能力を培っていただきたいと思ひます。

### 4 社会の分野

現代社会は多様化と複雑化の一途をたどり、便利さと同時に様々な問題をも生み出しています。例えば、国境を越えたヒト・モノ・カネの移動は、政治や経済のみならず教育や文化、さらには環境や食品などの分野にも大きな影響を与えています。このような現代社会をどのように把握したらよいのでしょうか。「社会の分野」における科目は、現代社会の多様な諸問題に対して、学際的かつ多面的な把握をするために必要な、様々な学問分野の基礎的概念（理論と体系）を学ぶことを目的としています。学生の皆さんには、政治学、経済学、法学、社会学などそれぞれの学問分野の知識や思考方法を身につけ、多様な問題を解決するために必要な能力を修得していただきたいと思ひます。

### 5 自然の分野

人文、社会、自然など、どのような分野であれ、私たちが何かの対象について理解しようとするとき、ただそれらを漠然と眺めているだけでは対象を理解することはできません。対象を理解するためには、それにふさわしい言葉、方法、道具からなる枠組みが必要になります。私たちを取り巻く自然の成り立ちや変化、また私たち人間と自然との関わりを理解しようとするときに、必要となる基本的な言葉、方法、道具を提供するのが自然の分野の科目群です。具体的には、自然を表現するために必要となる普遍的な言葉（概念、数式等）を提供するのが数学関連の科目であり、これらの言葉を用いて自然の成り立ちや変化を理解する方法と道具を提供するのが物理学、化学、生物学関連の科目です。また、自然の分野を学ぶ上で必要となる、情報処理の考え方と方法を提供するのが情報関連の科目です。

「自然の分野」における考え方・方法と、「人文や社会の分野」における考え方・方法との違いを知ることは、自分の理解の幅を広げることにつながりますので、「人文や社会の分野」と「自然の分野」をバランスよく履修することを勧めます。

### 6 人間形成の分野

「人間形成の分野」は、「幅広い教養と人間形成」を育むための分野として、本学での学びを人間形成の観点から自覚的に捉えることを促す主旨で設置しています。具体的には、自己表現力や対人関係力のほか、自ら課題を見つけ、解決へと導いていく問題解決能力を養う「キャリア形成に関する科目」、健康に関する理論と運動実践を通して、社会生活につながる健康の自己管理のための動機付けとなる知識とその方法を学ぶ「健康科学に関する科目」を配置しています。

「健康科学に関する科目」は、適切な身体運動を媒介として、将来必要とされる心身の能力を高めることを目標に、豊かな人間性を育成することをめざしています。学生時代は、一生を支配する世界観やライフスタイルを樹立する大切な時期でもあり、この時期に、健康と運動に関する知的理解を深め、道徳的に正しいことを判断し、実践する精神力や豊かな心を育成することが重要です。

## 共通教養科目 共通テーマ科目について

「共通テーマ科目」は、現代の諸課題を扱うため、学際的性格あるいは既存の学問分野を越境する性格をもつ科目で、学生が世界と自己との関係性を自立的・主体的に捉えるという基本的視座の形成に資することを目標としています。

こうした主旨・目標にもとづいて、現代社会における市民の生活、活動にかかわる諸課題を取り上げ、既存の学問分野に収まりきらない学際的な科目として、(1) 生活と社会、(2) 生活と科学、(3) 自然と環境という3つのサブテーマに基づいた科目群を開講しています。

なお、「(1) 生活と社会」の科目群には、創業者である米田吉盛の教え、本学で学んだ人たちの足跡を知ることによって、学びの原点を発見することを狙いとした「神奈川大学の歴史と建学の精神」を配置しています。

# F Y S (First Year Seminar) について

F Y Sは全学共通の初年次教育科目(必修)です。F Y Sとは、ファースト・イヤー・セミナー (First Year Seminar) の略で、新入学生(1年次生)は少人数のクラスに分かれ、“大学への入門”をアクティブ・ラーニングの場としてセミナー(演習)形式で学びます。本学では、このF Y Sを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートします。

新入学生のみなさんは、この科目の履修を通して「高校と大学との違い、神奈川大学の歴史と今、そして今後の授業で必須となるスキル(読み・書き・調べる力・問題発見力・表現力・プレゼンテーション能力)等」を学び、主体的に学修に取り組む姿勢を修得してください。

具体的には、以下のような能力を身につけた学生の育成をめざします。

[大学で学ぶための視点]

- ① 大学で学ぶことの意味を理解し、自分を客観視することができる。
- ② 事象や既存の理論に対して「問題」を発見し、また疑問を提示することができる。
- ③ 自らの能力を自己評価でき、新たな達成目標を設定することができる。

[大学で学ぶための方法]

- ① 大学の組織と沿革を知り、また学修支援システムを自立的・継続的・多面的に利用できる。
- ② 教育課程を理解し、4年間の学修計画をたてることができる。
- ③ 図書館の利用により、独自に文献・資料等を検索又は収集できる。
- ④ 既存の文書を指示された要件に従って要約・再構成でき、また、完成度の高いレポートや小論文を所定の期限までに完成できる。
- ⑤ グループ学習に際しては、協調性をもって主体的に参加することができ、また意見を述べることができる。
- ⑥ プレゼンテーションに際しては、自ら資料を作成し、論点を整理し、所要時間内に口頭発表ができる。

授業回数は、前学期(半期)15回を、「神奈川大学への適応」(前半7回)と「基本的なスタディー・スキルの涵養」(後半8回)とし、「神奈川大学への適応」では、大学生活を送るうえで必要な一般常識や態度を、「基本的なスタディー・スキルの涵養」では、大学で学ぶための基礎的技法を実践的に学びます。

なお、事前、事後課題については毎回教員から指示があります。

## 第Ⅰ編 神奈川大学への適応(前半7回)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 主体的に授業に取り組む①
- 第3回 神奈川大学を知る
- 第4回 情報リテラシー
- 第5回 図書館利用ガイダンス
- 第6回 主体的に授業に取り組む②
- 第7回 主体的に授業に取り組む③

## 第Ⅱ編 基本的なスタディー・スキルの涵養(後半8回)

以下には、8回を2課題として取り組む際の標準的な例を示した。

- 第8回 レポート作成やプレゼンテーション(1回目)① ～課題設定～
- 第9回 レポート作成やプレゼンテーション(1回目)② ～資料収集～
- 第10回 レポート作成やプレゼンテーション(1回目)③ ～具体的表現～
- 第11回 レポート作成やプレゼンテーション(1回目)④ ～相互での確認、問題改善と発見～
- 第12回 レポート作成やプレゼンテーション(2回目)⑤ ～課題設定～
- 第13回 レポート作成やプレゼンテーション(2回目)⑥ ～資料収集～
- 第14回 レポート作成やプレゼンテーション(2回目)⑦ ～具体的表現～
- 第15回 レポート作成やプレゼンテーション(2回目)⑧ ～相互での確認、問題改善とその発見、まとめ～

このF Y Sは少人数による演習(セミナー)科目です。毎回の出席はもちろんのこと、課題の提出、グループでの学修や作業、そして討論やプレゼンテーションなど、学生の主体的かつ積極的な参加が求められます。

成績評価は、課題、レポート、プレゼンテーション等の内容70%、授業に参加する姿勢30%を目安とします。

# 共通基盤科目 外国語科目の特徴と履修

## 1. 外国語科目の履修

言語の運用能力は、将来どのような分野に進もうと、身に付けた専門知識や専門技術を十分に活かして成果を上げるための基本となる重要な能力の一つです。言語は人類の文化の基礎ですから、将来社会人として人類の歴史と文化を継承して社会で活躍するために言語の運用能力を鍛えておくことが極めて重要です。しかも、現代のように国際化の進んだ社会では、国語（自国語）と外国語の両方を操る能力を養っておくことが望まれます。文化の根底を成す言語を出来るだけ広く深く学んで人類の文化の一般性と民族の文化の特殊性について理解を深めておくことは、将来の活動の源泉となる教養の奥行を深めることに繋がるからです。

理学部では、言語のこのような重要性を考慮し、共通教養科目から専攻科目を通してむしろ科目区分に捕われず、1年次から3年次に至る語学とその関連科目を「語学科目」として位置づけて、様々な語学科目を含めて言語運用能力の養成と向上を図る教育課程を提供しています。国際語として重要性の高い英語を第一外国語として必修科目に置いています。英語以外の外国語も第二外国語として履修することが出来るような仕組みになっています。

## 2. 外国語科目一覧

理学部の語学科目については、次表のとおりです。学科によって履修要件に違いがあるので注意してください。

理学部外国語科目

| 卒業要件単位                  | 科目     | 単位      | 科目区分    | 標準履修年次 | 履修要件 |    |
|-------------------------|--------|---------|---------|--------|------|----|
| 8単位<br>(選択必修)<br>※理学部共通 | 上級英語Ⅰ  | 2       | 共通(外国語) | 1前     |      |    |
|                         | 上級英語Ⅱ  | 2       | 共通(外国語) | 1後     |      |    |
|                         | 中級英語Ⅰ  | 2       | 共通(外国語) | 1前     |      |    |
|                         | 中級英語Ⅱ  | 2       | 共通(外国語) | 1後     |      |    |
|                         | 初級英語Ⅰ  | 2       | 共通(外国語) | 1前     |      |    |
|                         | 初級英語Ⅱ  | 2       | 共通(外国語) | 1後     |      |    |
|                         | 基礎英語Ⅰ  | 2       | 共通(外国語) | 1前     |      |    |
|                         | 基礎英語Ⅱ  | 2       | 共通(外国語) | 1後     |      |    |
|                         | 上級英語Ⅲ  | 2       | 共通(外国語) | 2前     |      |    |
|                         | 上級英語Ⅳ  | 2       | 共通(外国語) | 2後     |      |    |
|                         | 中級英語Ⅲ  | 2       | 共通(外国語) | 2前     |      |    |
|                         | 中級英語Ⅳ  | 2       | 共通(外国語) | 2後     |      |    |
|                         | 初級英語Ⅲ  | 2       | 共通(外国語) | 2前     |      |    |
|                         | 初級英語Ⅳ  | 2       | 共通(外国語) | 2後     |      |    |
|                         | 基礎英語Ⅲ  | 2       | 共通(外国語) | 2前     |      |    |
|                         | 基礎英語Ⅳ  | 2       | 共通(外国語) | 2後     |      |    |
|                         |        | 科学技術英語Ⅰ | 2       | 専攻C群   |      | 2前 |
|                         |        | 科学技術英語Ⅱ | 2       | 専攻C群   |      | 2後 |
| 選択科目                    | ドイツ語Ⅰ  | 2       | 共通(外国語) | 1前     |      |    |
|                         | ドイツ語Ⅱ  | 2       | 共通(外国語) | 1後     |      |    |
|                         | ドイツ語Ⅲ  | 2       | 共通(外国語) | 2前     |      |    |
|                         | ドイツ語Ⅳ  | 2       | 共通(外国語) | 2後     |      |    |
|                         | フランス語Ⅰ | 2       | 共通(外国語) | 1前     |      |    |
|                         | フランス語Ⅱ | 2       | 共通(外国語) | 1後     |      |    |
|                         | フランス語Ⅲ | 2       | 共通(外国語) | 2前     |      |    |
|                         | フランス語Ⅳ | 2       | 共通(外国語) | 2後     |      |    |
|                         | スペイン語Ⅰ | 2       | 共通(外国語) | 1前     |      |    |
|                         | スペイン語Ⅱ | 2       | 共通(外国語) | 1後     |      |    |
|                         | スペイン語Ⅲ | 2       | 共通(外国語) | 2前     |      |    |
|                         | スペイン語Ⅳ | 2       | 共通(外国語) | 2後     |      |    |

|          |   |         |    |   |
|----------|---|---------|----|---|
| 中国語Ⅰ     | 2 | 共通(外国語) | 1前 |   |
| 中国語Ⅱ     | 2 | 共通(外国語) | 1後 |   |
| 中国語Ⅲ     | 2 | 共通(外国語) | 2前 |   |
| 中国語Ⅳ     | 2 | 共通(外国語) | 2後 |   |
| 日本語Ⅰ     | 2 | 共通(外国語) | 1前 | # |
| 日本語Ⅱ     | 2 | 共通(外国語) | 1後 | # |
| 日本語Ⅲ     | 2 | 共通(外国語) | 2前 | # |
| 日本語Ⅳ     | 2 | 共通(外国語) | 2後 | # |
| 日本語上級Ⅰ   | 2 | 共通(外国語) | 2前 | # |
| 日本語上級Ⅱ   | 2 | 共通(外国語) | 2後 | # |
| <技能資格>   | 2 | 認定科目    |    | ☆ |
| <海外語学研修> | 2 | 認定科目    |    | ★ |

選択必修の8単位は、上級英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、中級英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、初級英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、基礎英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのうち、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを組み合わせた8単位です。

# 外国人留学生及び外国高等学校在学経験者を対象とする。日本語は、ひとクラスの開講である。日本語ⅠとⅢは前学期に開講する。日本語ⅡとⅣは後学期に開講する。

☆ 「各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程」によって認定された単位。

★ 「海外語学研修の単位認定に関する取扱規程」によって認定された単位。

全学生が卒業要件単位として英語を8単位履修しなければなりません。各学期の前に実施されるプレイスメントテストの成績により所属するクラスが指定されます。従って前学期は中級英語Ⅰ、後学期は上級英語Ⅱといった様に、前後学期で履修科目のレベルが変わる場合があります。レベルは異なっても、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの組み合わせで8単位修得してください。成績証明書には各レベル名が明記されますので、学生のみなさんには、より上位レベルの科目履修と単位修得の努力が望まれます。

### 3. 英語以外の外国語の履修方法

共通教養系科目の中に、英語以外の外国語として、ドイツ語・フランス語・スペイン語及び中国語が設けられています。

現在の文化的、政治的な国際状況のもとで、英語はもとより、それ以外の外国語を身につける必要が高まっていることは、いまさらいうまでもありません。みなさんは今後の活動のさまざまな場で、そのことを痛感させられる機会が、ますますふえていくことでしょう。

#### (1) ドイツ語・フランス語・スペイン語及び中国語の履修方法

① ドイツ語Ⅰ・フランス語Ⅰ・スペイン語Ⅰ及び中国語Ⅰ（1年次前学期配当 選択1科目 2単位）

② ドイツ語Ⅱ・フランス語Ⅱ・スペイン語Ⅱ及び中国語Ⅱ（1年次後学期配当 選択1科目 2単位）

それぞれの外国語を基礎から学ぶ科目で、前・後学期それぞれ週2回の講義Ⅰ・Ⅱを履修し、単位は計4単位です。

語学に限らず、あらゆる学問、スポーツ、芸術、その他一般において、基礎をしっかり身につけなければ、いずれは行き詰まります。そのことは肝に銘じてください。

これらの講義では、それぞれの言語の文法を学び、骨組みを知り、文章講読によってその肉付けをします。

なお、四ヶ国語とも、Ⅰ・Ⅱについて、複数クラス設けられており、授業時間割表の中で組み合わせが指定されています。しかし、基本的には組み合わせ自由となっていますので、時間割と異なる組み合わせの履修を希望する場合は、教務課に相談してください。

③ ドイツ語Ⅲ・フランス語Ⅲ・スペイン語Ⅲ及び中国語Ⅲ（2年次前学期配当 選択1科目 2単位）

④ ドイツ語Ⅳ・フランス語Ⅳ・スペイン語Ⅳ及び中国語Ⅳ（2年次後学期配当 選択1科目 2単位）

1年次で当該外国語のⅠ・Ⅱを履修済みで、同一外国語にさらに精通するため継続して学ぼうとするみなさんのために、Ⅲ・Ⅳ（それぞれ週2回、計4単位）が設けられています。また、何らかの理由で履修できなかった場合には、後学期開講のⅠ・Ⅱ及び前学期開講のⅢ・Ⅳもあるので、それらの履修もおすすめします。

各外国語のⅠ・Ⅱで修得した知識と能力を大いに活用し発展させながら運用能力をいっそう高める学修を行うため

に設けられた科目です。

当該外国語Ⅰ・Ⅱを履修し計4単位を修得しなければ、そのⅢ・Ⅳを履修することはできません。

なお、当該外国語Ⅲ・Ⅳの両方を履修することが望ましいですが、どちらか一方だけでもかまいません。その場合、Ⅲ・Ⅳの講義要項を熟読して、自分の関心と目的にそって選択履修をしてください。

⑤ 上級ドイツ語・上級フランス語・上級スペイン語及び上級中国語

さらに継続して語学能力を高めたい場合、下記に述べる経営学部開設されている上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの履修をおすすめします。各言語いずれも6単位以上修得していれば履修可能です。

⑥ 特修外国語（ドイツ語）特修外国語（フランス語）特修外国語（スペイン語）及び特修外国語（中国語）

上記の上級同様、語学上達の原則を学習の継続と考え、なおかつ派遣交換留学を希望し、その準備として語学検定の資格を必要とする場合、同じく経営学部開設されている特修外国語Ⅰ・Ⅱの履修をおすすめします。ただし、各外国語によって要件が異なるので、担当者に相談の上履修してください。各言語いずれも4単位以上修得していれば履修可能です。

(2) ドイツ語・フランス語・スペイン語及び中国語の既習者の履修方法

ドイツ語・フランス語・スペイン語及び中国語のいずれかについて、高等学校その他で既習の場合は、当該外国語の担当者がその学生の能力を判定した上で、その能力にみあった当該外国語の履修方法を指示します。

そのような学生は、4月のガイダンスで開催される語学相談会の折に、当該外国語の担当者に申し出てください。

◆ 経営学部の履修科目の中に設けられている英語以外の外国語科目の履修方法

経営学部には、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語のほかに、ロシア語、朝鮮語のそれぞれのⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの科目と、これら計6外国語の上級の科目が設けられています。

ロシア語、韓国語含む計6外国語を履修しようと思う学生は、これらの科目担当者に申し出て、履修についての指示を受けてください。

# 健康科学について

## 1. 健康科学Ⅰ・Ⅱについて

### (1) 健康科学の目指すもの

健康科学は適切な身体運動を媒介として、将来必要とされる心身の能力を高めることを目標としており、特に目指していることは身体と運動の知識と理論についての理解と認識を深め、実技などの実践をとおして豊かな人間性を育成することです。

近代文明が、利便性、効率性を求めすぎて、生活の中で適宜な運動量が不足している今日、将来的には自らが積極的に運動する機会を求めて行かなければなりませんし、同時にそれらを生活設計の中に位置づけていく態度と能力が必要です。学生時代は、一生を支配する世界観やライフスタイルを樹立する大切な時期です。この時期に、健康と運動に関する知的理解を深め、道徳的に正しいことを判断し実践する精神力や豊かな心を育成することが重要です。この理念を遂行するために次の目標をあげています。

- ① 健康・体力の保持増進
- ② 将来の健康管理を行う能力を身につける
- ③ 身体運動（スポーツ）を通して社会生活の縮図を体験し、社会のニーズに対応できる精神的能力を身につける
- ④ 生涯学習の一環としての社会体育への接点の役割として学ぶ

### (2) 「健康科学Ⅰ・Ⅱ」の内容

健康科学Ⅰ（1年次 前学期 1単位）

- |    |             |    |                     |
|----|-------------|----|---------------------|
| 理論 | ① 健康のとらえかた  | 実技 | ① 健康診断              |
|    | ② 体力論       |    | ② 体力診断              |
|    | ③ 身体機能と運動能力 |    | ③ 運動能力テスト           |
|    |             |    | ④ 基礎体力の養成           |
|    |             |    | ⑤ スポーツ種目を通じた運動能力の養成 |

健康科学Ⅱ（1年次 後学期 1単位）

- |    |               |    |                                  |
|----|---------------|----|----------------------------------|
| 理論 | ① 体力測定の評価について | 実技 | ① トレーニングの処方と実際                   |
|    | ② トレーニングの理論   |    | ② 適切な運動処方の実践                     |
|    | ③ 運動処方についての理論 |    | ③ 各種スポーツ種目を応用しながら基礎体力及び運動能力を養成する |

### (3) 講義運営及び成績評価

「健康科学Ⅰ・Ⅱ」の講義運営及び成績評価の方法

- ① 授業には必ず指定された使用書（「健康科学」）を持参します。
- ② 学期当初から2回、上記の理論を講義し、その後実践的授業とします。
- ③ 理論と実践を通して各自の体格・体力・運動能力を評価し、将来に向けての運動処方を考えます。
- ④ 健康科学Ⅰ・Ⅱの教材は陸上、体操、球技種目を採用し、トレーニングを含めた授業を展開します。
- ⑤ 学校体育演習を設定し、**教職課程専攻**<sup>注3)</sup>学生を対象として、将来教職に就いたときの課外活動の指導方法及び管理・運営等について学びます。
- ⑥ 特学コースを設定し、身体的疾病のため普通の授業に支障があると認められる者を対象として、現在の体力水準に合わせた運動量を処方しながら授業を展開します。
- ⑦ 成績評価については、**健康診断**<sup>注1)</sup>及び**体力テスト**<sup>注2)</sup>を受検し、総授業回数の3分の2以上出席した者が評価の対象となります。

健康科学はさまざまな評価基準が考えられますが、実践して効果を求める観点を重視します。さらに授業態度、教材に対する取り組みの姿勢なども考慮されます。

### (4) 受講における注意

- ① 授業に出席する場合は、運動に支障のない服装を用いること（**ジーンズ・チノパン等は厳禁**）。
- ② 体育館を使用するクラスは、体育館シューズを使用すること。
- ③ 病気その他の理由によって欠席又は見学・早退・遅刻する場合は、あらかじめ担当者に届けること。
- ④ 授業に出席した者は、担当者に必ず出席票を提出し出席印を求めること。

⑤ 指定されたクラスで履修すること。(学部別, 男女別, 男女合同教職課程専攻の有無別 (男女合同))

**注1) 健康診断について**

健康診断は自己の発育発達の実態を把握し理解することと、疾病の早期発見に意義があります。また適切な運動量を処方するためには、医学的に評価された個人及び集団の健康水準をもとにしなければなりません。したがって健康科学を履修する者は必ず受診しなければなりません。

**注2) 体力テストについて**

本学は学生の体力を把握するために、文部科学省スポーツテスト(運動能力テスト・体力診断)を実施しています。各自が自己の体力について認識を深めると同時に、授業における運動処方の参考にします。健康科学を履修する者は必ず受検しなければなりません。

**注3) 教職課程履修者対象の健康科学**

教員の仕事は多岐にわたりますが、課外活動(クラブ活動など)の担当となった時のために、積極的に引き受ける心構えと知的準備が必要です。専門的経験が無くとも、教室以外で生徒達と一緒に時間を過ごすことで多くの発見や人間関係が構築されることは、学校内での教員としての価値を高めるだけでなく教員としての視野も広げてくれることとなります。従って、教職課程履修者は、「健康科学(学校体育演習)」と表記された時限を履修すべきです。

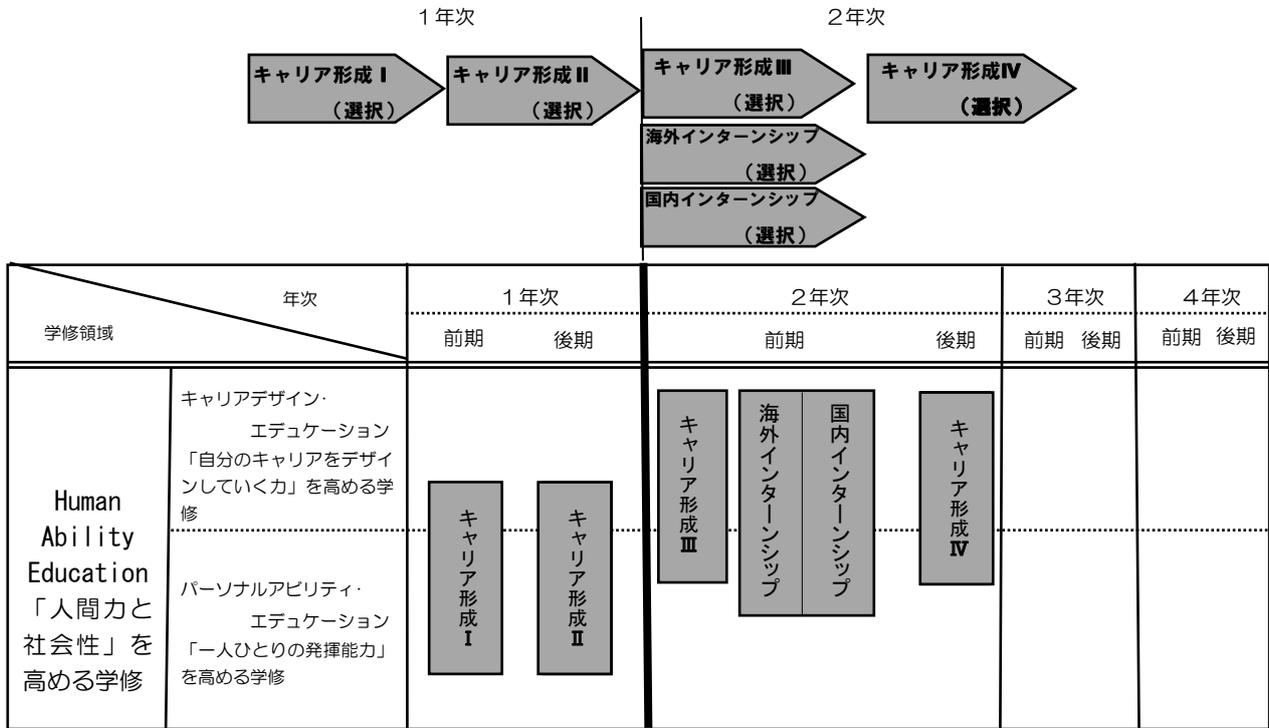
## 2. その他の体育・スポーツ関連科目

さらに、体育・スポーツ関連科目として、「生涯スポーツA~F」(ゴルフ, スキー, スノーボード, ウインドサーフィン等の集中授業含む), 「公衆衛生」等の科目が配置されています。これらは上記「健康科学」を履修した上で、自他の健康管理の能力を高め、さらに社会におけるスポーツ文化の形成と継承に貢献できる人材づくりを目指した科目です。

なお、これらの科目の授業内容、履修方法等については、共通教養科目のシラバスを参照してください。

# キャリア形成科目について

キャリア形成科目は、1年次から2年次までを対象として開講されている科目です。下の図のように、キャリア形成に必要なテーマを、年次毎にステップアップする形で配しています。



雇用環境は少しずつ改善の兆しがみられるとはいえ、企業は従来の厳選採用の姿勢を崩していません。採用基準を厳しくし「少数精鋭の視点で、高い人材要件を求める」傾向は変わっていないのです。学生側としては、より豊かな人生を送る上で、そしてその第一歩を踏み出す就職活動のうえで、一層の“自己形成・キャリア形成”が大切になってきます。そのためにはまず、基盤となる“人間力”を十分に醸成し高めていく努力が必要になるでしょう。

社会では、求める社会人像として「生き方・仕事に対する目的意識が明確で自己成長に意欲的であること」が重要視されています。やりたいことに向かって行動し努力できるか、協調し切磋琢磨することができるか、体験から学ぶ力はあるか・・・等々のことが重要視されるわけですが、これはまさに「自分、将来、他者、仕事、成長といったことに真摯に向き合うことのできる力」を求めているのです。本来的なキャリア形成とは、よい職を得てキャリアを作るために必要な要素という狭義のことではなく、この「自分、将来、他者、仕事、成長といったことに主体的に向き合うことのできる力を作る」という、生きる力の根幹となる考え方にほかならないのです。そのような観点で大学生活を考えた時、4年間のキャンパス生活で「自分の進路を見出すこと」と「社会に価値を寄与する力を高めること」が、大きな目標になることは間違いありません。「キャリア形成科目」は、このような各人それぞれの進路の先にある社会生活で必要となる考え方や能力を習得するために設けられている科目で、本学の「成長支援第一主義」教育の一翼を担うものです。

その目的を、より具体的に示すと次のようなものになります。

1. 自分に期待し、自分の将来を展望できる力を養う
2. 大学生活を、自分の力で、価値あるもの・充足したものにできる力を養う
3. 大学生として、社会の一員として必要な「5つの力=自己発見力、自己実現力、問題解決力、対人関係力、自己表現力」を養う
4. リアリティのある進路・職業観を形成する

このような目的を達成するために「キャリア形成科目」は、1年次から2年次後学期まで“各学年次にやるべきこと”を、ステップアップしながら履修していけるように、「キャリア形成 I」、「キャリア形成 II」、「キャリア形成 III」、「キャリア形成 IV」、「国内インターンシップ」、「海外インターンシップ」という科目で構成しています。

なお、履修にあたっては、「キャリア形成 I」から順に履修することが望ましいのですが、どのキャリア科目からも履修は可能となっています（ただし、下位年次の学生が上位年次の科目を履修することはできません）。

## (1) キャリア形成Ⅰ

1年次前学期に開講する「キャリア形成Ⅰ」は、以降に開講する「キャリア形成Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の導入部として、大学生から社会人へ自己成長するための最も必要な基礎過程となっています。

「キャリア形成Ⅰ」の学修目的は、“自己発見力とポジティブ思考の形成”です。

ここで言う基礎過程とは、高校生から大学生への意識転換ということにとどまらず「これからの自分を作るために、本来の自分の良さや自分らしさを発見し直す」ことを意味しています。自分がどんな人間なのか分からない、やりたいことが分からない、自分との向き合い方が分からない……。あるいは、自分の良さや好きなど、武器にしたい長所などをさらに伸ばすにはどうしたらいいのか。いずれの視点であっても、この1年次の時に「気づく（見つける）」ことがとても大切なのです。

その意味で、この「自分への新たな気づき（自分探し）」こそが、キャリア形成の最も重要なファクターであり第一歩であると言えるのです。

さらに、「ポジティブ思考（肯定的・前向きな考え方）ができるようになる」ことが、重要な目的になります。「ポジティブであること」は、将来どのような進路を歩むかにかかわらず社会に出た瞬間から必要条件として求められ、さらには人生の道程をも左右する要件です。短所と決め付けていること、できないと思い込んでいること、あきらめていること、苦手意識、目的をもてない……。等といったネガティブな部分をポジティブに変えることこそが、大学生活やそれ以降の社会人生活全般を充実させ自己成長していく鍵になるのです。

また、ゲスト講師等も招き、キャリア意識を持って大学生活を送ることの重要性等を共に考えます。

「キャリア形成Ⅰ」は、大学生活のスタート時点で取り組んでほしい二つの重要事項に対する“考え方と取り組み方”を学びますので、できるだけ多くの学生の履修を望みます。

## (2) キャリア形成Ⅱ

1年次後学期に開講する「キャリア形成Ⅱ」の学修目的は、“自己実現力の形成”です。

大学生活を半年以上過ごしたうえで「自分」をより深く見つめ、「自分の能力を引き出す考え方を習得し、“成りたい自分に成る力（自己実現力）”を高める」ことに取り組みます。

特に、人間としての根幹的な力となる「対人コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自己実現に至るプロセス構築力」について、具体的に、かつ実践的に学びます。

「キャリア形成Ⅱ」は、「キャリア形成Ⅰ」を通じて見つけた自分の良さを、将来の進路に結びつける力とするためのブリッジになる内容であり、同時に、大学生活の集大成である就職活動時に求められる「人間力」を向上させるものでもありますので、できるだけ「キャリア形成Ⅰ」から継続した履修を望みます。

## (3) キャリア形成Ⅲ

2年次前学期に開講する「キャリア形成Ⅲ」の学修目的は、“職業観の形成”です。

自分の興味関心や職業観を「具体的な仕事に関係付けていく」ことに取り組みます。

どのような仕事があるのか？ 業種業界とはどういうものなのか？ 企業に入った後はどのようにキャリアを積んでいくものなのか？ また、大学で学ぶことと仕事とはどのように関連するのか、社会で活かされるのか？ 業界研究はどのようにしたらいいのか？ そのようなことを幅広く考察しながら、自分の関心に沿った仕事について詳しく学んでいきます。

「入社後3年間で、3割もの若者が辞めていく」という現象が社会問題化していますが、この主な原因は「ミスマッチ」であると言われています。ミスマッチとは「イメージしていた仕事、会社と現実とのギャップ」、つまり「こんなはずじゃなかった……」ということです。せっかく仕事に就いたにもかかわらず、2～3年（キャリアとなるには短かすぎる期間）で辞めてしまうことは、本人にとっても企業にとっても不幸なことと言わざるを得ません。

このミスマッチ現象を払拭するには、下記の事項が不可欠です。

- ・憧れや知名度などのイメージだけに固執するのではなく、「幅広い選択肢と選拓眼」を持つこと
- ・できるだけ「やりたい仕事を具体的にすること
- ・「自分はなぜこの仕事をやりたいのか、をしっかりと意味づける」こと
- ・やりたい仕事（及び業界）のことを、できるだけ「リアリティをもって理解すること
- ・「比較検討、取捨選択できる手法を身につける」こと

このような必要事項を習得することが「キャリア形成Ⅲ」の目的ですので、そのために、数多くの業界を知り選択肢を持てるように、できるだけ多くの“業界出身者によるゲスト講話”を聴き考察できる授業形態で進めます。

キャリア形成Ⅰ・Ⅱの履修有無にかかわらず、できるだけ多くの学生の履修を望みます（ただし、1年次生は履修することができません）。

#### (4) キャリア形成Ⅳ

2年次後学期に開講する「キャリア形成Ⅳ」の学修目的は、“問題解決力の形成・向上”です。特にこのプログラムでは、下記の能力について習得・向上を目指します。

- ・問題解決力
- ・論理的思考力，構想力

昨今のような変化の激しい社会状況においては、様々な問題事象が起こり得ます。企業活動においても、問題に直面する場面は多く、その際には全力で問題に向き合い解決・克服していかなければなりません。そのため、とりわけ問題解決力は重要視されており、新入社員の資質条件としても重要視されています。

また、論理的思考力も、職務遂行・問題解決・構想策定・成果創出の基礎資質として、業種・職種にかかわらず重要視されています。

「キャリア形成Ⅳ」では、この重要な能力要件の向上を図るために、必要な事柄（ディベートや企画立案等）をトレーニングしたうえで、企業とコラボレーションし、実践的なプロジェクト形式で“実際に企業で起きた問題を解決していく”ことを学修します。

“できる・使える力”となり、来るべき就職活動にも大いに役立つ内容ですので、できるだけ「キャリア形成Ⅲ」から継続した履修を望みます（ただし、1年次生は履修することができません）。

#### (5) 国内インターンシップ

国内企業でのインターンシップに参加することを目的として開講する事前研修プログラムです。「国内インターンシップ」の学修目的は“企業体験で必要となる実践力・発揮能力の向上”です。

近年、インターンシップは、通常の授業では体験できない「企業活動や職場の実態」「仕事の現実」などをリアルに体験できる非常に有意義な機会として、学生・企業双方から注目されているものです。

ビジネスキャリアが豊富な講師による、マナー、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル、指示の受け方、電話対応・伝言・報告の仕方、態度行動のあり方、社会エチケット等々をトレーニングし、自分自身の実習目的を明確にしていきます。

なお、この授業は、国内インターンシップ（夏季休業中に行う）参加前の授業と、参加後の授業に分かれて構成されています。

プレゼンテーション力や問題解決力を向上させたい、又は、十分な時間をかけて事前準備にとりくみたい国内インターンシップ参加予定者は、この授業を履修してください（ただし、1年次生は履修することができません）。

#### (6) 海外インターンシップ

海外企業でのインターンシップに参加することを目的として開講する事前研修プログラムです。「海外インターンシップ」の学修目的は“海外生活や業務体験で必要となる、また日本国内とは異なる「視点・考え方・態度行動・人間関係の持ち方」等の異文化コミュニケーションのあり方を理解し、実際の場で役立てられるようにする”ことです。

海外ビジネスキャリアが豊富な講師による、海外企業オフィスでのワークスタイルや慣習の違い、マナー・コミュニケーションスタイルの習得、受付・店舗等での接客接遇の仕方、電話対応・伝言・報告の仕方等々を、実際のオフィスシーンを想定しながらトレーニングし身に付けていきます。また、英文履歴書の書き方や、ホームステイ等の生活場面での留意点等も指導します。これらを通じて海外生活への不安を軽減し、対応力やプレゼンテーション力を養います。

なお、この授業は、海外インターンシップ（夏季休業中に行う）参加前の授業と、参加後の授業に分かれて構成されています。

海外インターンシップ参加予定者は、この授業を必ず履修してください（ただし、1年次生は履修することができません）。

共通教養科目

教育課程表

2017年度 理学部 共通教養科目教育課程表(2014年度入学者から適用)

|         |           | 全年次対象      |                |            |              |          |            |            |              | 卒業要件単位数 |   |       |  |
|---------|-----------|------------|----------------|------------|--------------|----------|------------|------------|--------------|---------|---|-------|--|
|         |           | 前期         |                |            |              | 後期       |            |            |              |         |   |       |  |
|         |           | 授業科目       | 単位             | 授業科目       | 単位           | 授業科目     | 単位         | 授業科目       | 単位           |         |   |       |  |
| 共通基盤科目  | FYS       | FYS(1年次対象) | 2              |            |              |          |            |            |              |         | 2 | 英語8単位 |  |
|         | 外国語科目     | 上級英語 I     | 2              | ○上級英語 III  | 2            | 上級英語 II  | 2          | ○上級英語 IV   | 2            |         |   |       |  |
|         |           | 中級英語 I     | 2              | ○中級英語 III  | 2            | 中級英語 II  | 2          | ○中級英語 IV   | 2            |         |   |       |  |
|         |           | 初級英語 I     | 2              | ○初級英語 III  | 2            | 初級英語 II  | 2          | ○初級英語 IV   | 2            |         |   |       |  |
|         |           | 基礎英語 I     | 2              | ○基礎英語 III  | 2            | 基礎英語 II  | 2          | ○基礎英語 IV   | 2            |         |   |       |  |
|         |           | ☆日本語 I     | 2              | ○☆日本語 III  | 2            | ☆日本語 II  | 2          | ○☆日本語 IV   | 2            |         |   |       |  |
|         |           |            |                | ○☆日本語上級 I  | 2            |          |            | ○☆日本語上級 II | 2            |         |   |       |  |
|         |           | ドイツ語 I     | 2              | ○ドイツ語 III  | 2            | ドイツ語 II  | 2          | ○ドイツ語 IV   | 2            |         |   |       |  |
|         |           | フランス語 I    | 2              | ○フランス語 III | 2            | フランス語 II | 2          | ○フランス語 IV  | 2            |         |   |       |  |
|         | スペイン語 I   | 2          | ○スペイン語 III     | 2          | スペイン語 II     | 2        | ○スペイン語 IV  | 2          |              |         |   |       |  |
| 中国語 I   | 2         | ○中国語 III   | 2              | 中国語 II     | 2            | ○中国語 IV  | 2          |            |              |         |   |       |  |
| 人文の分野   | 宗教学 I     | 2          | ○西洋美術文化概説      | 2          | 日本語力の基礎      | 2        | 心理学        | 2          |              |         |   | 4     |  |
|         | 日本文化論     | 2          | ○日本史           | 2          |              |          | 日本文化論      | 2          |              |         |   |       |  |
|         | 哲学 I      | 2          | 心理学            | 2          | 宗教学 II       | 2        | 哲学 II      | 2          |              |         |   |       |  |
|         | 日本文学      | 2          |                |            | 俳句研究         | 2        | ☆日本事情      | 2          |              |         |   |       |  |
|         |           |            |                |            | 芸術論          | 2        | ○外国史       | 2          |              |         |   |       |  |
| 社会の分野   | 社会学       | 2          | ボランティア論        | 2          | 政治学概説        | 2        | 文化人類学      | 2          |              |         |   | 4     |  |
|         | 日本国憲法     | 2          | 文化人類学          | 2          | 現代社会論        | 2        | 日本国憲法      | 2          |              |         |   |       |  |
|         | 経済の基礎     | 2          |                |            | 法学           | 2        | ボランティア論    | 2          |              |         |   |       |  |
| 自然の分野   | 基礎数学      | 2          | 基礎化学           | 2          | 基礎数学         | 2        | 統計学        | 2          |              |         |   | 4     |  |
|         |           |            | 基礎生物学 I        | 2          | 基礎物理学 II     | 2        | 脳科学の基礎     | 2          |              |         |   |       |  |
|         |           |            | コンピュータ概論       | 2          | 物質化学         | 2        |            |            |              |         |   |       |  |
|         | リベラルアーツ数学 | 2          | 生命科学の基礎        | 2          |              |          |            |            |              |         |   |       |  |
|         | 基礎物理学 I   | 2          | 統計学            | 2          | 基礎生物学 II     | 2        |            |            |              |         |   |       |  |
| 人間形成の分野 | 健康科学 I    | 1          | ○生涯スポーツA       | 2          | 健康科学 II      | 1        | ○生涯スポーツB   | 2          |              |         |   | 2     |  |
|         |           |            | ○生涯スポーツC       | 2          |              |          | ○生涯スポーツD   | 2          |              |         |   |       |  |
|         |           |            | ○生涯スポーツE       | 2          |              |          | ○生涯スポーツF   | 2          |              |         |   |       |  |
|         |           |            | ○公衆衛生          | 2          |              |          | ○公衆衛生      | 2          |              |         |   |       |  |
|         | キャリア形成 I  | 1          | ○キャリア形成 III    | 1          | キャリア形成 II    | 1        | ○キャリア形成 IV | 1          |              |         |   |       |  |
|         |           |            | ○国内インターンシップ    | 2          |              |          |            |            |              |         |   |       |  |
|         |           |            | ○海外インターンシップ    | 2          |              |          |            |            |              |         |   |       |  |
| 共通テーマ科目 | 生活と社会     | 2          | 神奈川大学の歴史と建学の精神 | 2          | 日本の伝統文化と地域連携 | 2        | 人間と社会      | 2          | 日本の伝統文化と地域連携 | 2       |   | 2     |  |
|         | 生活と科学     | 2          | ITの基礎          | 2          |              |          | 数理・情報科学の世界 | 2          | 科学と経営        | 2       |   |       |  |
|         |           |            |                |            |              |          |            | 2          | ○循環型社会論      | 2       |   |       |  |
|         | 自然と環境     | 2          | 自然の体験学習        | 2          |              |          | 地域の自然史     | 2          | 自然科学の世界      | 2       |   |       |  |
|         |           |            |                |            |              |          | 海の体験学習     | 2          | 自然の体験学習      | 2       |   |       |  |

左記の各分野における最低卒業要件単位数のほか6単位

## 2017年度 理学部 共通教養科目教育課程表(2014年度入学者から適用)

〔備考〕

○印は2年次生以上を対象とした授業科目を示す。

☆印は外国人留学生(外国高等学校在学経験者(帰国生徒等)を含む)を対象とした授業科目を示す。

〔履修要件〕

1 共通基盤科目のFYSは全学共通の必修科目である。

2 共通基盤科目の外国語科目については以下のとおりとする。

①英語8単位が必修である。なお、履修に際しては、1年次において共通基盤科目の外国語科目の英語4単位を履修し(必修)、2年次以降においては共通基盤科目の外国語科目の英語または各学科が指定する専攻科目の英語科目から合計4単位を履修すること。

②共通基盤科目の外国語科目の英語については、プレースメントテストの結果による習熟度別クラス指定とする。

③数理・物理学科、生物科学科、総合理学プログラムの学生の英語の履修について

・共通基盤科目の外国語科目の英語は、「上級英語Ⅰ」、「中級英語Ⅰ」、「初級英語Ⅰ」、「基礎英語Ⅰ」から2単位、「上級英語Ⅱ」、「中級英語Ⅱ」、「初級英語Ⅱ」、「基礎英語Ⅱ」から2単位の組み合わせで4単位を修得し、「上級英語Ⅲ」、「中級英語Ⅲ」、「初級英語Ⅲ」、「基礎英語Ⅲ」、又は専攻科目C群の「科学技術英語Ⅰ」のいずれか2単位と「上級英語Ⅳ」、「中級英語Ⅳ」、「初級英語Ⅳ」、「基礎英語Ⅳ」又は専攻科目C群の「科学技術英語Ⅱ」のいずれか2単位の組み合わせで4単位修得しなければならない。

ただし、「科学技術英語Ⅰ」および「科学技術英語Ⅱ」を共通基盤科目の外国語科目の英語の単位とした場合は、C群関連科目の単位として算入することはできない。

④情報科学科の学生の英語の履修について

・共通基盤科目の外国語科目の英語は、「上級英語Ⅰ」、「中級英語Ⅰ」、「初級英語Ⅰ」、「基礎英語Ⅰ」から2単位、「上級英語Ⅱ」、「中級英語Ⅱ」、「初級英語Ⅱ」、「基礎英語Ⅱ」から2単位の組み合わせで4単位を修得し、「上級英語Ⅲ」、「中級英語Ⅲ」、「初級英語Ⅲ」、「基礎英語Ⅲ」、又は専攻科目C群の「科学技術英語Ⅰ」のいずれか2単位と「上級英語Ⅳ」、「中級英語Ⅳ」、「初級英語Ⅳ」、「基礎英語Ⅳ」、専攻科目B群の「情報英語」又は専攻科目C群の「科学技術英語Ⅱ」のいずれか2単位の組み合わせで4単位修得しなければならない。

ただし、専攻科目B群の「情報英語」を共通基盤科目の外国語科目の英語の単位とした場合はB群情報系科目の単位として算入することはできない。また、「科学技術英語Ⅰ」および

「科学技術英語Ⅱ」を共通基盤科目の外国語科目の英語の単位とした場合は、C群関連科目の単位として算入することはできない。

⑤化学科の学生の英語の履修について

・共通基盤科目の外国語科目の英語は、「上級英語Ⅰ」、「中級英語Ⅰ」、「初級英語Ⅰ」、「基礎英語Ⅰ」から2単位、「上級英語Ⅱ」、「中級英語Ⅱ」、「初級英語Ⅱ」、「基礎英語Ⅱ」から2単位の組み合わせで4単位を修得し、「上級英語Ⅲ」、「中級英語Ⅲ」、「初級英語Ⅲ」、「基礎英語Ⅲ」、専攻科目B群の「化学表現Ⅰ」又は、専攻科目C群の「科学技術英語Ⅰ」のいずれか2単位と「上級英語Ⅳ」、「中級英語Ⅳ」、「初級英語Ⅳ」、「基礎英語Ⅳ」、専攻科目B群の「化学表現Ⅱ」又は専攻科目C群の「科学技術英語Ⅱ」のいずれか2単位の組み合わせで4単位修得しなければならない。

ただし、専攻科目B群の「化学表現Ⅰ」および「化学表現Ⅱ」を共通基盤科目の外国語科目の英語の単位とした場合はB群化学系科目の単位として算入することはできない。また

「科学技術英語Ⅰ」および「科学技術英語Ⅱ」を共通基盤科目の外国語科目の英語の単位とした場合は、C群関連科目の単位として算入することはできない。

⑥外国人留学生(外国高等学校在学経験者(帰国生徒等)を含む)以外の日本語を母語としない者が、「日本語上級Ⅰ・Ⅱ」の履修を希望する場合は、学部長に申請し許可を得ること。

3 共通基盤科目の人文の分野、社会の分野、自然の分野及び人間形成の分野については以下のとおりとする。

①人文の分野、社会の分野、自然の分野からそれぞれ4単位、人間形成の分野から2単位を修得すること。

②数理・物理学科の学生は、自然の分野の「リベラルアーツ数学」を卒業要件単位に算入することはできない。

③情報科学科の学生は、自然の分野の「コンピュータ概論」を卒業要件単位に算入することはできない。

④化学科の学生は、自然の分野の「基礎化学」及び「物質化学」を卒業要件単位に算入することはできない。

⑤生物科学科の学生は、自然の分野の「基礎生物学Ⅰ」、「基礎生物学Ⅱ」及び「生命科学の基礎」を卒業要件単位に算入することはできない。

4 共通テーマ科目については2単位修得すること。

5 上記1から4のほか、共通基盤科目(英語以外の外国語科目含む)から6単位修得すること。

## 基礎科目履修案内

(2012・2013年度入学者に適用)

# 理学部 基礎科目について（2012・2013年度入学者に適用）

【2011年度以前の入学者は、2011年度履修要覧を参照すること（神奈川大学ホームページから閲覧できます）】

理学部基礎科目は「FYS」「外国語科目（英語）」「教養系科目Ⅰ群・Ⅱ群」「キャリア形成科目」から構成されています。「教養系科目Ⅰ群・Ⅱ群」については卒業要件を満たすように教育課程表を参照して履修してください。ここでは特に、「FYS」「外国語科目（英語）」、教養系科目Ⅱ群の「英語以外の外国語」「健康科学」「キャリア形成科目」の履修について述べます。

## 〈FYS〉

FYSは全学共通の初年次教育科目（必修）です。FYSとは、ファースト・イヤー・セミナー（First Year Seminar）の略で、新入学生（1年次生）は少人数のクラスに分かれ、“大学への入門”をアクティブ・ラーニングの場としてセミナー（演習）形式で学びます。本学では、このFYSを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートします。

新入学生のみなさんは、この科目の履修を通して「高校と大学との違い、神奈川大学の歴史と今、そして今後の授業で必須となるスキル（読み・書き・調べる能力・問題発見力・表現力・プレゼンテーション能力）等」を学び、主体的に学修に取り組む姿勢を修得してください。

具体的には、以下のような能力を身につけた学生の育成をめざします。

〔大学で学ぶための視点〕

- ① 大学で学ぶことの意味を理解し、自分を客観視することができる。
- ② 事象や既存の理論に対して「問題」を発見し、また疑問を提示することができる。
- ③ 自らの能力を自己評価でき、新たな達成目標を設定することができる。

〔大学で学ぶための方法〕

- ① 大学の組織と沿革を知り、また学修支援システムを自立的・継続的・多面的に利用できる。
- ② 教育課程を理解し、4年間の学修計画をたてることができる。
- ③ 図書館の利用により、独自に文献・資料等を検索又は収集できる。
- ④ 既存の文書を指示された要件に従って要約・再構成でき、また、完成度の高いレポートや小論文を所定の期限までに完成できる。
- ⑤ グループ学習に際しては、協調性をもって主体的に参加することができ、また意見を述べることができる。
- ⑥ プレゼンテーションに際しては、自ら資料を作成し、論点を整理し、所要時間内に口頭発表ができる。

授業回数は、前学期（半期）15回を、「神奈川大学への適応」（前半7回）と「基本的なスタディー・スキルの涵養」（後半8回）とし、「神奈川大学への適応」では、大学生活を送るうえで必要な一般常識や態度を、「基本的なスタディー・スキルの涵養」では、大学で学ぶための基礎的技法を実践的に学びます。

なお、事前、事後課題については毎回教員から指示があります。

### 第Ⅰ編 神奈川大学への適応（前半7回）

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 主体的に授業に取り組む①
- 第3回 神奈川大学を知る
- 第4回 情報リテラシー
- 第5回 図書館利用ガイダンス
- 第6回 主体的に授業に取り組む②
- 第7回 主体的に授業に取り組む③

### 第Ⅱ編 基本的なスタディー・スキルの涵養（後半8回）

以下には、8回を2課題として取り組む際の標準的な例を示した。

- 第8回 レポート作成やプレゼンテーション（1回目）① ～課題設定～
- 第9回 レポート作成やプレゼンテーション（1回目）② ～資料収集～
- 第10回 レポート作成やプレゼンテーション（1回目）③ ～具体的表現～

- 第11回 レポート作成やプレゼンテーション（1回目）④ ～相互での確認，問題改善と発見～
- 第12回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑤ ～課題設定～
- 第13回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑥ ～資料収集～
- 第14回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑦ ～具体的表現～
- 第15回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑧ ～相互での確認，問題改善とその発見、まとめ～

このFYSは少人数による演習（セミナー）科目です。毎回の出席はもちろんのこと，課題の提出，グループでの学修や作業，そして討論やプレゼンテーションなど，学生の主体的かつ積極的な参加が求められます。

成績評価は，課題，レポート，プレゼンテーション等の内容70%，授業に参加する姿勢30%を目安とします。

## 〈外国語科目〉

### 1. 外国語科目の履修

言語の運用能力は、将来どのような分野に進もうと、身に付けた専門知識や専門技術を十分に活かして成果を上げるための基本となる重要な能力の一つです。言語は人類の文化の基礎ですから、将来社会人として人類の歴史と文化を継承して社会で活躍するために言語の運用能力を鍛えておくことが極めて重要です。しかも、現代のように国際化の進んだ社会では、国語（自国語）と外国語の両方を操る能力を養っておくことが望まれます。文化の根底を成す言語を出来るだけ広く深く学んで人類の文化の一般性と民族の文化の特殊性について理解を深めておくことは、将来の活動の源泉となる教養の奥行を深めることに繋がるからです。

理学部では、言語のこのような重要性を考慮し、基本科目から専攻科目を通してむしろ科目区分に捕われず、1年次から3年次に至る語学とその関連科目を「語学科目」として位置づけて、様々な語学科目を含めて言語運用能力の養成と向上を図る教育課程を提供しています。国際語として重要性の高い英語を第一外国語として必修科目に置いています。英語以外の外国語も第二外国語として履修することが出来るような仕組みになっています。

### 2. 外国語科目一覧

理学部の語学科目については、次表のとおりです。学科によって履修要件に違いがあるので注意してください。

理学部外国語科目

| 卒業要件単位                            | 科目      | 単位   | 科目区分    | 標準履修年次 | 履修要件 |
|-----------------------------------|---------|------|---------|--------|------|
| 4単位<br>(選択必修)<br>※理学部共通           | 上級英語Ⅰ   | 2    | 基礎(外国語) | 1前     |      |
|                                   | 上級英語Ⅱ   | 2    | 基礎(外国語) | 1後     |      |
|                                   | 中級英語Ⅰ   | 2    | 基礎(外国語) | 1前     |      |
|                                   | 中級英語Ⅱ   | 2    | 基礎(外国語) | 1後     |      |
|                                   | 初級英語Ⅰ   | 2    | 基礎(外国語) | 1前     |      |
|                                   | 初級英語Ⅱ   | 2    | 基礎(外国語) | 1後     |      |
|                                   | 基礎英語Ⅰ   | 2    | 基礎(外国語) | 1前     |      |
|                                   | 基礎英語Ⅱ   | 2    | 基礎(外国語) | 1後     |      |
|                                   | 日本語Ⅰ    | 2    | 基礎(外国語) | 1前     | #    |
|                                   | 日本語Ⅱ    | 2    | 基礎(外国語) | 1後     | #    |
| 4単位<br>※情報科学科<br>(選択必修)<br>他は選択科目 | 上級英語Ⅲ   | 2    | 基礎(教養系) | 2前     | ※    |
|                                   | 上級英語Ⅳ   | 2    | 基礎(教養系) | 2後     | ※    |
|                                   | 中級英語Ⅲ   | 2    | 基礎(教養系) | 2前     | ※    |
|                                   | 中級英語Ⅳ   | 2    | 基礎(教養系) | 2後     | ※    |
|                                   | 初級英語Ⅲ   | 2    | 基礎(教養系) | 2前     | ※    |
|                                   | 初級英語Ⅳ   | 2    | 基礎(教養系) | 2後     | ※    |
|                                   | 基礎英語Ⅲ   | 2    | 基礎(教養系) | 2前     | ※    |
|                                   | 基礎英語Ⅳ   | 2    | 基礎(教養系) | 2後     | ※    |
|                                   | 日本語Ⅲ    | 2    | 基礎(教養系) | 2前     | #    |
|                                   | 日本語Ⅳ    | 2    | 基礎(教養系) | 2後     | #    |
|                                   | 科学技術英語Ⅰ | 2    | 専攻C群    | 2前     |      |
| 科学技術英語Ⅱ                           | 2       | 専攻C群 | 2後      |        |      |
| 選択科目                              | ドイツ語Ⅰ   | 2    | 基礎(教養系) | 1前     |      |
|                                   | ドイツ語Ⅱ   | 2    | 基礎(教養系) | 1後     |      |
|                                   | ドイツ語Ⅲ   | 2    | 基礎(教養系) | 2前     |      |
|                                   | ドイツ語Ⅳ   | 2    | 基礎(教養系) | 2後     |      |
|                                   | フランス語Ⅰ  | 2    | 基礎(教養系) | 1前     |      |
|                                   | フランス語Ⅱ  | 2    | 基礎(教養系) | 1後     |      |
|                                   | フランス語Ⅲ  | 2    | 基礎(教養系) | 2前     |      |
|                                   | フランス語Ⅳ  | 2    | 基礎(教養系) | 2後     |      |
|                                   | スペイン語Ⅰ  | 2    | 基礎(教養系) | 1前     |      |
|                                   | スペイン語Ⅱ  | 2    | 基礎(教養系) | 1後     |      |
|                                   | スペイン語Ⅲ  | 2    | 基礎(教養系) | 2前     |      |

|        |   |         |    |   |
|--------|---|---------|----|---|
| スペイン語Ⅳ | 2 | 基礎(教養系) | 2後 |   |
| 中国語Ⅰ   | 2 | 基礎(教養系) | 1前 |   |
| 中国語Ⅱ   | 2 | 基礎(教養系) | 1後 |   |
| 中国語Ⅲ   | 2 | 基礎(教養系) | 2前 |   |
| 中国語Ⅳ   | 2 | 基礎(教養系) | 2後 |   |
| <技能資格> | 2 | 認定科目    |    | ☆ |

選択必修の4単位は、上級英語Ⅰ・Ⅱ、中級英語Ⅰ・Ⅱ、初級英語Ⅰ・Ⅱ、基礎英語Ⅰ・Ⅱのうち、ⅠとⅡを組み合わせた4単位です。

※ 情報科学科学生は、上記の英語科目4単位に加え、教養系科目の上級英語Ⅲ、中級英語Ⅲ、初級英語Ⅲ、基礎英語Ⅲ、又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅰのいずれか2単位と、教養系科目の上級英語Ⅳ、中級英語Ⅳ、初級英語Ⅳ、基礎英語Ⅳ、又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅱのいずれか2単位の単位をさらに修得しなければならない。

# 外国人留学生及び外国高等学校在学経験者を対象とする。日本語は、ひとクラスの開講である。日本語ⅠとⅢは前学期に開講する。日本語ⅡとⅣは後学期に開講する。

☆ 「各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程」によって認定された単位。

1年次は、全学生が卒業要件単位として英語科目を4単位履修しなければなりません。各学期の前に実施されるブレイズメントテストの成績により所属するクラスが指定されます。従って前学期は中級英語Ⅰ、後学期は上級英語Ⅱといった様に、前後学期で履修科目のレベルが変わる場合があります。レベルは異なっても、Ⅰ・Ⅱの組み合わせで4単位修得してください。成績証明書には各レベル名が明記されるので、学生のみなさんには、より上位レベルの科目履修と単位修得の努力が望まれます。

## 〈英語以外の外国語の履修方法〉

### 1. 英語以外の外国語の履修方法

基礎科目の教養系科目の中に、英語以外の外国語として、ドイツ語、フランス語、スペイン語及び中国語が設けられています。

現在の文化的、政治的な国際状況のもとで、英語はもとより、それ以外の外国語を身につける必要が高まっていることは、いまさらいうまでもありません。みなさんは今後の活動のさまざまな場で、そのことを痛感させられる機会が、ますますふえることでしょう。

#### (1) ドイツ語・フランス語・スペイン語及び中国語の履修方法

① ドイツ語Ⅰ・フランス語Ⅰ・スペイン語Ⅰ及び中国語Ⅰ（1年次前学期配当 選択1科目 2単位）

② ドイツ語Ⅱ・フランス語Ⅱ・スペイン語Ⅱ及び中国語Ⅱ（1年次後学期配当 選択1科目 2単位）

それぞれの外国語を基礎から学ぶ科目で、前・後学期それぞれ週2回の講義Ⅰ・Ⅱを履修し、単位は計4単位です。語学に限らず、あらゆる学問、スポーツ、芸術、その他一般において、基礎をしっかり身につけなければ、いずれは行き詰まります。そのことは肝に銘じてください。

これらの講義では、それぞれの言語の文法を学び、骨組みを知り、文章講読によってその肉付けをします。

なお、四ヶ国語とも、Ⅰ・Ⅱについて、複数クラス設けられており、授業時間割表の中で組み合わせが指定されています。しかし、基本的には組み合わせ自由となっていますので、時間割と異なる組み合わせの履修を希望する場合は、教務課に相談してください。

③ ドイツ語Ⅲ・フランス語Ⅲ・スペイン語Ⅲ及び中国語Ⅲ（2年次前学期配当 選択1科目 2単位）

④ ドイツ語Ⅳ・フランス語Ⅳ・スペイン語Ⅳ及び中国語Ⅳ（2年次後学期配当 選択1科目 2単位）

1年次で当該外国語のⅠ・Ⅱを履修済みで、同一外国語にさらに精通するため継続して学ぼうとするみなさんのために、Ⅲ・Ⅳ（それぞれ週2回、計4単位）が設けられています。また、何らかの理由で履修できなかった場合には、後学期開講のⅠ・Ⅲ及び前学期開講のⅡ・Ⅳもあるので、それらの履修もおすすめします。

各外国語のⅠ・Ⅱで修得した知識と能力を大いに活用し発展させながら運用能力をいっそう高める学修を行うために設けられた科目です。

当該外国語Ⅰ・Ⅱを履修し計4単位を修得した者でなければ、そのⅢ・Ⅳを履修することはできません。

なお、当該外国語Ⅲ・Ⅳの両方を履修することが望ましいですが、どちらか一方だけでもかまいません。その場合、Ⅲ・Ⅳの講義要項を熟読して、自分の関心と目的にそって選択履修をしてください。

⑤ 上級ドイツ語・上級フランス語・上級スペイン語及び上級中国語

さらに継続して語学能力を高めたい場合、下記に述べる経営学部が開設されている上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの履修をおすすめします。各言語いずれも6単位以上修得していれば履修可能です。

#### (2) ドイツ語・フランス語・スペイン語及び中国語の既習者の履修方法

ドイツ語、フランス語、スペイン語及び中国語のいずれかについて、高等学校その他で既習の場合は、当該外国語の担当者がその学生の能力を判定した上で、その能力にみあった当該外国語の履修方法を指示します。

そのような学生は、4月のガイダンスで開催される語学相談会の折に、当該外国語の担当者に申し出てください。

#### ◆ 経営学部の履修科目のなかに設けられている英語以外の外国語科目の履修方法

経営学部には、ドイツ語、フランス語、スペイン語及び中国語のほかに、ロシア語、韓国語のそれぞれのⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの科目と、これら計6外国語の上級の科目が設けられています。

ロシア語、韓国語含む計6外国語を履修しようと思う学生は、これらの科目担当者に申し出て、履修についての指示を受けてください。

## 〈健康科学〉

### 1. 健康科学Ⅰ・Ⅱについて

#### (1) 健康科学の目指すもの

健康科学は適切な身体運動を媒介として、将来必要とされる心身の能力を高めることを目標としており、特に目指していることは身体と運動の知識と理論についての理解と認識を深め、実技などの実践をとおして豊かな人間性を育成することです。

近代文明が、利便性、効率性を求めすぎて、生活の中で適宜な運動量が不足している今日、将来的には自らが積極的に運動する機会を求めて行かなければなりませんし、同時にそれらを生活設計の中に位置づけていく態度と能力が必要です。学生時代は、一生を支配する世界観やライフスタイルを樹立する大切な時期でもあります。この時期に、健康と運動に関する知的理解を深め、道徳的に正しいことを判断し実践する精神力や豊かな心を育成することが重要です。この理念を遂行するために次の目標をあげています。

- ① 健康・体力の保持増進
- ② 将来の健康管理を行う能力を身につける
- ③ 身体運動（スポーツ）を通して社会生活の縮図を体験し、社会のニーズに対応できる精神的能力を身につける
- ④ 生涯学習の一環としての社会体育への接点の役割として学ぶ

#### (2) 「健康科学Ⅰ・Ⅱ」の内容

健康科学Ⅰ（1年次 前学期 1単位）

|    |             |    |                     |
|----|-------------|----|---------------------|
| 理論 | ① 健康のとらえかた  | 実技 | ① 健康診断              |
|    | ② 体力論       |    | ② 体力診断              |
|    | ③ 身体機能と運動能力 |    | ③ 運動能力テスト           |
|    |             |    | ④ 基礎体力の養成           |
|    |             |    | ⑤ スポーツ種目を通じた運動能力の養成 |

健康科学Ⅱ（1年次 後学期 1単位）

|    |               |    |                                  |
|----|---------------|----|----------------------------------|
| 理論 | ① 体力測定の評価について | 実技 | ① トレーニングの処方と実際                   |
|    | ② トレーニングの理論   |    | ② 適切な運動処方の実践                     |
|    | ③ 運動処方についての理論 |    | ③ 各種スポーツ種目を応用しながら基礎体力及び運動能力を養成する |

#### (3) 講義運営及び成績評価

「健康科学Ⅰ・Ⅱ」の講義運営及び成績評価の方法

- ① 授業には必ず指定された使用書（「健康科学」）を持参します。
- ② 学期当初から2回、上記の理論を講義し、その後実践的授業とします。
- ③ 理論と実践を通して各自の体格・体力・運動能力を評価し、将来に向けての運動処方を考えます。
- ④ 健康科学Ⅰ・Ⅱの教材は陸上、体操、球技種目を採用し、トレーニングを含めた授業を展開します。
- ⑤ 学校体育演習を設定し、**教職課程専攻**<sup>注3)</sup>学生を対象として、将来教職に就いたときの課外活動の指導方法及び管理・運営等について学びます。
- ⑥ 特学コースを設定し、身体的疾病のため普通の授業に支障があると認められる者を対象として、現在の体力水準に合わせた運動量を処方しながら授業を展開します。
- ⑦ 成績評価については、**健康診断**<sup>注1)</sup>及び**体力テスト**<sup>注2)</sup>を受検し、総授業回数の3分の2以上出席した者が評価の対象となります。

健康科学はさまざまな評価基準が考えられますが、実践して効果を求める観点を重視します。さらに授業態度、教材に対する取り組みの姿勢なども考慮されます。

#### (4) 受講における注意

- ① 授業に出席する場合は、運動に支障のない服装を用いること（**ジーンズ・チノパン等は厳禁**）。
- ② 体育館を使用するクラスは、体育館シューズを使用すること。
- ③ 病気その他の理由によって欠席又は見学・早退・遅刻する場合は、あらかじめ担当者に届けること。
- ④ 授業に出席した者は、担当者に必ず出席票を提出し出席印を求めること。
- ⑤ 指定されたクラスで履修すること。（学部別、男女別、男女合同教職課程専攻の有無別（男女合同））

### 注1) 健康診断について

健康診断は自己の発育発達の実態を把握し理解することと、疾病の早期発見に意義があります。また適切な運動量を処方するためには、医学的に評価された個人及び集団の健康水準をもとにしなければなりません。したがって健康科学を履修する者は必ず受診しなければなりません。

### 注2) 体力テストについて

本学は学生の体力を把握するために、文部科学省スポーツテスト（運動能力テスト・体力診断）を実施しています。各自が自己の体力について認識を深めると同時に、授業における運動処方の参考にします。健康科学を履修する者は必ず受検しなければなりません。

### 注3) 教職課程履修者対象の健康科学

教員の仕事は多岐にわたりますが、課外活動（クラブ活動など）の担当となった時のために、積極的に引き受ける心構えと知的準備が必要です。専門的経験が無くとも、教室以外で生徒達と一緒に時間を過ごすことで多くの発見や人間関係が構築されることは、学校内での教員としての価値を高めるだけでなく教員としての視野も広げてくれることとなります。従って、教職課程履修者は、「健康科学（学校体育演習）」と表記された時限を履修すべきです。

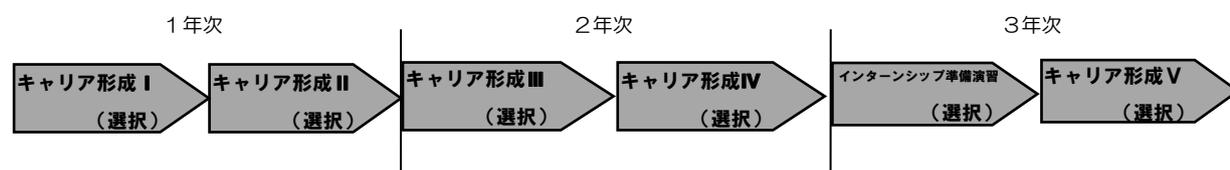
## 2. その他の体育・スポーツ関連科目

さらに、体育・スポーツ関連科目として、「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」（ゴルフ、スキー、スノーボード、ウインドサーフィン等の集中授業含む）、「身体運動科学」「保健衛生論」「栄養学」「スポーツマンシップ論」等の科目が配置されています。これらは上記「健康科学」を履修した上で、自他の健康管理の能力を高め、さらに社会におけるスポーツ文化の形成と継承に貢献できる人材づくりを目指した科目です。

なお、これらの科目の授業内容、履修方法等については、経営学部のシラバスを参照してください。

## 〈キャリア形成科目〉

キャリア形成科目は、1年次から3年次までを対象として開講されている科目です。下の図のように、キャリア形成に必要なテーマを、年次毎にステップアップする形で配しています。



| 学修領域                                       | 年次   | 1年次 |         | 2年次 |         | 3年次                               |         | 4年次 |         |
|--|--|-----|---------|-----|---------|-----------------------------------|---------|-----|---------|
|  |  | 前期  | 後期      | 前期  | 後期      | 前期                                | 後期      | 前期  | 後期      |
| Human Ability Education<br>「人間力と社会性」を高める学修 | キャリアデザイン・エデュケーション<br>「自分のキャリアをデザインしていく力」を高める学修 |     | キャリア形成Ⅰ |     | キャリア形成Ⅲ |                                   | キャリア形成Ⅳ |     | キャリア形成Ⅴ |
|  | パーソナルアビリティ・エデュケーション<br>「一人ひとりの発揮能力」を高める学修      |     | キャリア形成Ⅱ |     | キャリア形成Ⅳ |                                   | キャリア形成Ⅴ |     |         |
|  |  |     |         |     |         | (選択) / 13週+実習+2コマ<br>インターンシップ準備演習 |         |     |         |

雇用環境は、これまでの堅調な動きから一転、世界的な景気動向の影響に左右される” 堅調～鈍化の波が短期間のタームで変動する” 不安定状況になっています。経済の鈍化を背景に、業績不振、それに伴う雇用調整が行われつつあること、団塊世代の大量退職後の新卒補充が折り返したことで等々により、消極的な採用環境へと変化しつつあるのです。このような社会状況下では、企業は、より採用基準を厳しくし「少数精鋭の視点で、高い人材要件を求める」傾向を強めます。学生側としては、より豊かな人生を送る上で、そしてその第一歩を踏み出す就職活動のうえで、一層の“自己形成・キャリア形成”が大切になってきます。そのためにはまず、基盤となる“人間力”を十分に醸成し高めていく努力が必要になるでしょう。

社会では、求める社会人像として「生き方・仕事に対する目的意識が明確で自己成長に意欲的であること」が重要視されています。やりたいことに向かって行動し努力できるか、協調し切磋琢磨することができるか、体験から学ぶ力はあるか・・・等々のことが重要視されるわけですが、これはまさに「自分、将来、他者、仕事、成長といったことに真摯に向き合うことのできる力」を求めているのです。本来的なキャリア形成とは、よい職を得てキャリアを作るために必要な要素という狭義のことではなく、この「自分、将来、他者、仕事、成長といったことに主体的に向き合うことのできる力を作る」という、生きる力の根幹となる考え方にほかならないのです。そのような観点で大学生活を考えた時、4年間のキャンパス生活で「自分の進路を見出すこと」と「社会に価値を寄与する力を高めること」が、大きな目標になることは間違いありません。「キャリア形成科目」は、このような各人それぞれの進路の先にある社会生活で必要となる考え方や能力を習得するために設けられている科目で、本学の「成長支援第一主義」教育の一翼を担うものです。

その目的を、より具体的に示すと次のようなものになります。

1. 自分に期待し、自分の将来を展望できる力を養う
2. 大学生活を、自分の力で、価値あるもの・充足したものにできる力を養う
3. 大学生として、社会の一員として必要な「5つの力=自己発見力、自己実現力、問題解決力、対人関係力、自己表現力」を養う
4. リアリティのある進路・職業観を形成する

このような目的を達成するために「キャリア形成科目」は、1年次から3年次後学期まで“各学年次にやるべきこと”を、ステップアップしながら履修していけるように、「キャリア形成Ⅰ」、「キャリア形成Ⅱ」、「キャリア形成Ⅲ」、「キャリア形成Ⅳ」、「キャリア形成Ⅴ」、「インターンシップ準備演習」という科目で構成しています。

なお、履修にあたっては、「キャリア形成Ⅰ」から順に履修することが望ましいのですが、どのキャリア科目からも履

修は可能となっています（ただし、下位年次の学生が上位年次の科目を履修することはできません）。

### （１）キャリア形成Ⅰ

1年次前学期に開講する「キャリア形成Ⅰ」は、以降に開講する「キャリア形成Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」の導入部として、大学生から社会人へ自己成長するための最も必要な基礎過程となっています。

「キャリア形成Ⅰ」の学修目的は、“自己発見力とポジティブ思考の形成”です。

ここで言う基礎過程とは、高校生から大学生への意識転換ということにとどまらず「これからの自分を作るために、本来の自分の良さや自分らしさを発見し直す」ことを意味しています。自分がどんな人間なのか分からない、やりたいことが分からない、自分との向き合い方が分からない・・・あるいは、自分の良さや好きなところ、武器にしたい長所などをさらに伸ばすにはどうしたらいいのか。いずれの視点であっても、この1年次の時に「気づく（見つける）」ことがとても大切なのです。

その意味で、この「自分への新たな気づき（自分探し）」こそが、キャリア形成の最も重要なファクターであり第一歩であると言えるのです。

さらに、「ポジティブ思考（肯定的・前向きな考え方）ができるようになる」ことが、重要な目的になります。「ポジティブであること」は、将来どのような進路を歩むかにかかわらず社会に出た瞬間から必要条件として求められ、さらには人生の道程をも左右する要件です。短所と決め付けていること、できないと思い込んでいること、あきらめていること、苦手意識、目的をもてない・・・等といったネガティブな部分をポジティブに変えることこそが、大学生活やそれ以降の社会人生活全般を充実させ自己成長していく鍵になるのです。「キャリア形成Ⅰ」は、大学生活のスタート時点で取り組んでほしい二つの重要事項に対する“考え方と取り組み方”を学びますので、できるだけ多くの学生の履修を望みます。

### （２）キャリア形成Ⅱ

1年次後学期に開講する「キャリア形成Ⅱ」の学修目的は、“自己実現力の形成”です。

大学生活を半年以上過ごしたうえでの「自分」をより深く見つけ、「自分の能力を引き出す考え方を習得し、“成りたい自分に成る（自己実現）力”を高める」ことに取り組みます。

「人間としての根幹的な力、対人コミュニケーション力、自己実現に至るプロセス構築力」について、具体的に、かつ実践的に学びます。

「キャリア形成Ⅱ」は、「キャリア形成Ⅰ」を通じて見つけた自分の良さを、将来の進路に結びつける力とするためのブリッジになる内容であり、同時に、大学生活の集大成である就職活動時に求められる「人間力」を向上させるものでもありますので、できるだけ「キャリア形成Ⅰ」から継続した履修を望みます。

### （３）キャリア形成Ⅲ

2年次前学期に開講する「キャリア形成Ⅲ」の学修目的は、“職業観の形成”です。

自分の興味関心や職業観を「具体的な仕事に関係付けしていく」ことに取り組みます。

どのような仕事があるのか？ 業種業界とはどういうものなのか？ 企業に入った後はどのようにキャリアを積んでいくものなのか？ また、大学で学ぶことと仕事とはどのように関連するのか、社会で活かされるのか？ 業界研究はどのようにしたらいいのか？ そのようなことを幅広く考察しながら、自分の関心に沿った仕事について詳しく学んでいきます。

「入社後3年間で、3割もの若者が辞めていく」という現象が社会問題化していますが、この主な原因は「ミスマッチ」であると言われています。ミスマッチとは「イメージしていた仕事、会社と現実とのギャップ」、つまり「こんなはずじゃなかった・・・」ということです。せっかく仕事に就いたにもかかわらず、2～3年（キャリアとなるには短かすぎる期間）で辞めてしまうことは、本人にとっても企業にとっても不幸なことと言わざるを得ません。

このミスマッチ現象を払拭するには、下記の事項が不可欠です。

- ・ 憧れや知名度などのイメージだけに固執するのではなく、「幅広い選択肢と選拓眼」を持つこと
- ・ できるだけ「やりたい仕事を具体的にすること
- ・ 「自分はなぜこの仕事をやりたいのか、をしっかりと意味づける」こと
- ・ やりたい仕事（及び業界）のことを、できるだけ「リアリティをもって理解すること
- ・ 「比較検討、取捨選択できる手法を身につける」こと

このような必要事項を習得することが、「キャリア形成Ⅲ」の目的です。キャリア形成Ⅰ・Ⅱの履修有無にかかわらず、できるだけ多くの学生の履修を望みます（ただし、1年次生は履修することができません）。

#### (4) キャリア形成Ⅳ

2年次後学期に開講する「キャリア形成Ⅳ」の学修目的は、“問題解決力の形成・向上”です。特にこのプログラムでは、下記の2つの能力について習得・向上を目指します。

- ・問題解決力
- ・論理的思考力

昨今のような変化の激しい社会状況においては、様々な問題事象が起こり得ます。企業活動においても、問題に直面する場面は多く、その際には全力で問題に向き合い解決・克服していかなければなりません。そのため、とりわけ問題解決力は重要視されており、新入社員の資質条件としても重要視されています。

また、論理的思考力も、職務遂行・問題解決・成果創出の基礎資質として、業種・職種にかかわらず重要視されています。

「キャリア形成Ⅳ」では、この2つの重要な能力要件の向上を図るために、必要な事柄を、実践的なトレーニング・スタイルを用いて学び、向上を図ります。来るべき就職活動にも大いに役立つ内容ですので、できるだけ「キャリア形成Ⅲ」から継続した履修を望みます（ただし、1年次生は履修することができません）。

#### (5) キャリア形成Ⅴ

3年次後学期に実施する「キャリア形成Ⅴ」の学修目的は、“自己表現・プレゼンテーション力の向上”です。

自己表現する力は、コミュニケーション・対人関係の核をなす点で、発揮能力の最たるものであると言えます。それによって意思疎通が図られ、相互の理解・納得が得られる、最も重要な能力要件です。3年次は“社会と大学の接合を具体化（＝進路・就職実現）”する最も重要な時期となるため、特にプレゼンテーション力の向上を中心に、実践的なトレーニングを行ないます。また、論理的に考え社会的視野を伴った自己表現をできるようにするため“新聞を読みこなしていく力”も養います。

「キャリア形成Ⅳ」と連続して受講することで、“論理的で自己表現が豊かな、より円滑な対人関係が作れる力”の習得・向上が図れます。

キャリア形成Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの履修有無にかかわらず、できるだけ多くの学生の履修を望みます（ただし、1・2年次生は履修することができません）。

#### (6) インターンシップ準備演習（国内実習、海外実習）

「インターンシップ」のための、事前研修プログラムです。「インターンシップ準備演習」の学修目的は“企業体験で必要となる実践力・発揮能力の向上”です。

近年、インターンシップは、通常の授業では体験できない「企業活動や職場の実態」「仕事の現実」などをリアルに体験できる非常に有意義な機会として、学生・企業双方から注目されているものです。

また、「海外インターンシップ研修」に参加する学生を対象に、別途「海外インターンシップ・クラス」を設置しています（横浜キャンパス・湘南ひらつかキャンパス双方に設置）。海外ビジネスキャリアが豊富な講師による、海外企業オフィスでの実際的な英語の使い方、日本と海外でのワークスタイルや慣習の違い、マナー・コミュニケーションスタイルの習得、受付・店舗等での接客接遇の仕方、電話対応・伝言・報告の仕方等々を、実際のオフィスシーンを想定しながらトレーニングし身に付けていきます。また、英文履歴書の書き方も指導します。

なお、この授業は、国内・海外共に、「インターンシップ準備演習の履修と夏期休暇中に行われるインターンシップに参加し、かつ報告書の提出と報告会での報告を行うこと」で単位認定が成されます。プレゼンテーション力や問題解決力を向上させたい、又は、十分な時間をかけて事前準備にとりくみたいインターンシップ参加予定者は、この準備演習を大いに利用してください（ただし、1・2年次生は履修することができません）。

基礎科目

教育課程表



## 2017年度 理学部 基礎科目教育課程表(2012・2013年度入学者に適用)

### 【備考】

△印はⅠ・Ⅱの組合せで4単位履修すること。

☆印は外国人留学生及び外国高等学校在学経験者を対象とした授業科目を示す。

### 【履修要件】

- 1 原則として上位年次の科目を履修することはできない。但し、担任者が受講を認める場合は履修できる。
- 2 教養系科目の「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「スペイン語」は、当該科目のⅠ・Ⅱの単位を修得したものでなければ、そのⅢ・Ⅳを履修することはできない。

### 【基礎科目卒業要件単位】

- 1 次の科目を含めて25単位以上修得しなければならない。

(1) FYS(First Year Seminar) 2単位

(2) 外国語科目 4単位(2科目)

上級英語Ⅰ，中級英語Ⅰ，初級英語Ⅰ，基礎英語Ⅰから2単位，上級英語Ⅱ，中級英語Ⅱ，初級英語Ⅱ，基礎英語Ⅱから2単位の組み合わせで4単位修得しなければならない。

[外国人留学生等対象]

外国人留学生等は，上級英語Ⅰ，中級英語Ⅰ，初級英語Ⅰ，基礎英語Ⅰから2単位，上級英語Ⅱ，中級英語Ⅱ，初級英語Ⅱ，基礎英語Ⅱから2単位の組み合わせ，又は日本語Ⅰ，日本語Ⅱの組み合わせで修得しなければならない。

(3) 教養系科目Ⅰ群から12単位以上。

(4) 上記(3)の他，教養系科目及びキャリア形成科目から計7単位以上。

但し，キャリア形成科目取得単位の卒業要件単位への算入は，3単位までとする。

- 2 基礎科目の25単位を超える単位は，8単位まで卒業要件単位数として専攻科目C群の関連科目に算入することができる。

- 3 同一科目を重複して履修することはできない。

### ◆ 情報科学科の学生の英語の履修について(含:留学生等対象日本語の履修について)

①情報科学科の日本人学生は，外国語科目4単位に加え，教養系科目の上級英語Ⅲ，中級英語Ⅲ，初級英語Ⅲ，基礎英語Ⅲ，又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅰのいずれか2単位と，教養系科目の上級英語Ⅳ，中級英語Ⅳ，初級英語Ⅳ，基礎英語Ⅳ，又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅱのいずれか2単位の単位をさらに修得しなければならない。

②情報科学科の外国人留学生等は，外国語科目4単位に加え，以下の(a)若しくは(b)の科目の組み合わせで，更に4単位修得しなければならない。

(a)日本語Ⅰ，日本語Ⅱの組み合わせで外国語科目4単位を修得した者は，教養系科目より日本語Ⅲ，日本語Ⅳの組み合わせで4単位

(b)上級英語Ⅰ，中級英語Ⅰ，初級英語Ⅰ，基礎英語Ⅰから2単位，上級英語Ⅱ，中級英語Ⅱ，初級英語Ⅱ，基礎英語Ⅱから2単位の組み合わせで4単位を修得した者は，教養系科目の上級英語Ⅲ，中級英語Ⅲ，初級英語Ⅲ，基礎英語Ⅲ，又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅰのいずれか2単位と上級英語Ⅳ，中級英語Ⅳ，初級英語Ⅳ，基礎英語Ⅳ又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅱのいずれか2単位の組み合わせで4単位

2017年度 理学部 基礎科目教育課程表(2009から2011年度入学者に適用)

|               | 1年  |          |  |           | 2年          |            |              |           | 3年         |              |            |          | 卒業要件<br>単位数  |   |
|---------------|---|----------|--|-----------|-------------|------------|--------------|-----------|------------|--------------|------------|----------|--------------|---|
|               | 前期(1セメスター)  |          | 後期(2セメスター)   |           | 前期(3セメスター)  |            | 後期(4セメスター)   |           | 前期(5セメスター) |              | 後期(6セメスター) |          |              |   |
|               | 授業科目  | 単位       | 授業科目   | 単位        | 授業科目        | 単位         | 授業科目         | 単位        | 授業科目       | 単位           | 授業科目       | 単位       |              |   |
| FYS           | FYS(First Year Seminar)                           | 2        |  |           |             |            |              |           |            |              |            |          | 2            |   |
| 外国語科目         | △上級英語 I   | 2        | △上級英語 II   | 2         |             |            |              |           |            |              |            |          | 4            |   |
|               | △中級英語 I   | 2        | △中級英語 II   | 2         |             |            |              |           |            |              |            |          |              |   |
|               | △初級英語 I   | 2        | △初級英語 II   | 2         |             |            |              |           |            |              |            |          |              |   |
|               | △基礎英語 I   | 2        | △基礎英語 II   | 2         |             |            |              |           |            |              |            |          |              |   |
|               | ☆日本語 I  | 2        | ☆日本語 II  | 2         |             |            |              |           |            |              |            |          |              |   |
| 基礎科目<br>教養系科目 | ドイツ語 I  | 2        | ドイツ語 II  | 2         | 上級英語 III    | 2          | 上級英語 IV      | 2         | メディア研究     | 2            | 社会問題論      | 2        | 25<br><br>19 |   |
|               | フランス語 I   | 2        | フランス語 II   | 2         | 中級英語 III    | 2          | 中級英語 IV      | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 中国語 I   | 2        | 中国語 II   | 2         | 初級英語 III    | 2          | 初級英語 IV      | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | スペイン語 I   | 2        | スペイン語 II   | 2         | 基礎英語 III    | 2          | 基礎英語 IV      | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 健康科学 I  | 1        | 健康科学 II  | 1         | ドイツ語 III    | 2          | ドイツ語 IV      | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 日本国憲法   | 2        | 日本国憲法  | 2         | フランス語 III   | 2          | フランス語 IV     | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 宗教学 I   | 2        | 政治学概説  | 2         | 中国語 III     | 2          | 中国語 IV       | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | ボランティア論   | 2        | 宗教学 II   | 2         | スペイン語 III   | 2          | スペイン語 IV     | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 心理学   | 2        | ボランティア論  | 2         | ☆日本語 III    | 2          | ☆日本語 IV      | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 経済の基礎   | 2        | 物質科学の世界[休講]  | 2         | 経営メディア論     | 2          | 日本文化入門       | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 神奈川大学の歴史  | 2        | 人間環境科学[休講]<br>(2009年度入学者のみ適用)                      | 2         | 哲学 I        | 2          | 哲学 II        | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 一般化学 I [休講]<br>(化学科以外対象)<br>(2010年度以前の<br>入学者に適用) | 2        | 心理学  | 2         | 地球環境と企業     | 2          | 日本語教授法       | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 社会学   | 2        | 現代社会論  | 2         | 西洋美術文化概説    | 2          | 文化人類学        | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 生物科学の世界[休講]<br>(生物科学科以外対象)                        | 2        | 俳句研究   | 2         | 日本文学        | 2          | 国語表現 II [休講] | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 日本文化論   | 2        | 芸術論  | 2         | 文化人類学       | 2          | 保健衛生論        | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               | 山の体験学習[休講]  | 2        | 日本文化論  | 2         | 国語表現 I [休講] | 2          | 日本社会論        | 2         |            |              |            |          |              |   |
|               |   |          | 一般化学 II [休講]<br>(化学科以外対象)<br>(2010年度以前の<br>入学者に適用) | 2         | 保健衛生論       | 2          |              |           |            |              |            |          |              |   |
|               | キャリア形成<br>科目                                      | キャリア形成 I | 1  | キャリア形成 II | 1           | キャリア形成 III | 1            | キャリア形成 IV | 1          | インターンシップ準備演習 | 1          | キャリア形成 V |              | 1 |

## 2017年度 理学部 基礎科目教育課程表(2009から2011年度入学者に適用)

### 【備考】

△印はⅠ・Ⅱの組合せで4単位履修すること。

☆印は外国人留学生及び外国高等学校在学経験者を対象とした授業科目を示す。

### 【履修要件】

- 1 原則として上位年次の科目を履修することはできない。但し、担任者が受講を認める場合は履修できる。
- 2 教養系科目の「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「スペイン語」は、当該科目のⅠ・Ⅱの単位を修得したものでなければ、そのⅢ・Ⅳを履修することはできない。
- 3 化学科の学生は「一般化学Ⅰ」、「一般化学Ⅱ」を履修できない。
- 4 生物科学科の学生は「生物科学の世界」を履修できない。

### 【基礎科目卒業要件単位】

- 1 次の科目を含めて25単位以上修得しなければならない。

(1) FYS(First Year Seminar) 2単位

(2) 外国語科目 4単位(2科目)

上級英語Ⅰ、中級英語Ⅰ、初級英語Ⅰ、基礎英語Ⅰから2単位、上級英語Ⅱ、中級英語Ⅱ、初級英語Ⅱ、基礎英語Ⅱから2単位の組み合わせで4単位修得しなければならない。

[外国人留学生等対象]

外国人留学生等は、上級英語Ⅰ、中級英語Ⅰ、初級英語Ⅰ、基礎英語Ⅰから2単位、上級英語Ⅱ、中級英語Ⅱ、初級英語Ⅱ、基礎英語Ⅱから2単位の組み合わせ、又は日本語Ⅰ、日本語Ⅱの組み合わせで修得しなければならない。

(3) 教養系科目及びキャリア形成科目から計19単位以上。

但し、キャリア形成科目取得単位の卒業要件単位への算入は、3単位までとする。

- 2 基礎科目の25単位を超える単位は、8単位まで卒業要件単位数として専攻科目C群の関連科目に算入することができる。

- 3 同一科目を重複して履修することはできない。

### ◆ 情報科学科の学生の英語の履修について(含:留学生等対象日本語の履修について)

①情報科学科の日本人学生は、外国語科目4単位に加え、教養系科目の上級英語Ⅲ、中級英語Ⅲ、初級英語Ⅲ、基礎英語Ⅲ、又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅰのいずれか2単位と、教養系科目の上級英語Ⅳ、中級英語Ⅳ、初級英語Ⅳ、基礎英語Ⅳ、又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅱのいずれか2単位の単位をさらに修得しなければならない。

②情報科学科の外国人留学生等は、外国語科目4単位に加え、以下の(a)若しくは(b)の科目の組み合わせで、更に4単位修得しなければならない。

(a)日本語Ⅰ、日本語Ⅱの組み合わせで外国語科目4単位を修得した者は、教養系科目より日本語Ⅲ、日本語Ⅳの組み合わせで4単位

(b)上級英語Ⅰ、中級英語Ⅰ、初級英語Ⅰ、基礎英語Ⅰから2単位、上級英語Ⅱ、中級英語Ⅱ、初級英語Ⅱ、基礎英語Ⅱから2単位の組み合わせで4単位を修得した者は、教養系科目の上級英語Ⅲ、中級英語Ⅲ、初級英語Ⅲ、基礎英語Ⅲ、又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅰのいずれか2単位と上級英語Ⅳ、中級英語Ⅳ、初級英語Ⅳ、基礎英語Ⅳ又は専攻科目C群の科学技術英語Ⅱのいずれか2単位の組み合わせで4単位